神戸市西区

吉田南遺跡

-地域ケア開発研究所建設事業に伴う発掘調査報告書-

2006年3月

兵庫県教育委員会

神戸市西区

吉 田 南 遺 跡

-地域ケア開発研究所建設事業に伴う発掘調査報告書-



調査地点遠景 上空北から



調査区全景 上空西から



SD201土器出土状況 (北から)



SD201土器出土状況 (西から)



SD205土器出土状況 (北から)



SK207出土土器状況 (南から)



須恵器鹿頭部出土状況(北から)



調査地点(調査前・南東から)



学内説明会風景



現地説明会風景

例 言

- 1. 本書は、兵庫県神戸市西区玉津町吉田字足田に所在する吉田南遺跡の埋蔵文化財調査報告書である。
- 2. 発掘調査は、地域ケア開発研究所建設事業に関連して、兵庫県立看護大学(現:兵庫県立大学)の依頼を受けて、平成15年度に実施した。
- 3. 整理作業については、兵庫県立大学の依頼を受けて、平成17年度に兵庫県教育委員会埋蔵文化財調 査事務所において実施した。
- 4. 遺物写真の撮影は、株式会社アコードと委託契約を交わして、兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所において実施した。
- 5. 本書の各遺構図面で使用している包囲は座標北を示し、水準は東京湾平均水準(T.P.) を使用した。
- 6. 本書で使用した地図は下記のとおりである。

第2図 国土地理院1/25000地形図「東二見」、国土地理院1/25000地形図「前開」 国土地理院1/25000地形図「明石」、国土地理院1/25000地形図「須磨」

- 7. 石器に付着した赤色物の分析を(株)パレオ・ラボに委託し、その結果については附章に掲載した。
- 8. 本書の執筆は、附章を除いて鐵 英記が担当した。編集は、岸野奈津子の補助を得て鐵が行った。
- 9. 吉田南遺跡の調査成果は既に現地説明会等で公表している。これらと本報告では内容を異にする部分もあるが、本書が最新の担当者の見解と理解されたい。
- 10. 調査・整理にあたっては下記の方々および機関のご協力・ご指導をいただいた。記して謝意を表します。

神戸市教育委員会 間壁葭子

順不同 • 敬称略

凡例

遺構

本書では、遺構は種類ごとに以下の略号を用いた。

SB:掘立柱建物 SD:溝 SH:竪穴住居 SK:土坑 SP:柱穴

SX:土器溜まり

遺構名は原則として調査時に命名したものを用いているため、一部に不統一な遺構名があることを 理解されたい。

遺物

土器 土器の断面は、弥生土器・土師器は白抜き、須恵器は黒塗りである。

石器 他の遺物とは、番号の前にSをつけて区別している。

本文目次

第1章 は	じめに(1p)
第11	節 調査にいたる経緯
第21	節 確認調査・本発掘調査の経過
第3章	節 整理作業の経過
第2章遺	跡の位置と環境
第11	節 遺跡の位置
第21	節 地理的環境
第3章	節 歷史的環境
第3章調	査の成果 ······(6p)
第11	節 基本層序
第2章	节 遺構
第3章	节 遺物
第4章ま	とめ ······(22p)
附章 磨石	5付着赤色物の顔料分析 ······(24p)
報告	小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小小
	巻首図版目次
巻首図版	
調査地点	気遠景 上空北から/調査区全景 上空西から
巻首図版:	2
SD201	-器出土状況(北から)/SD201土器出土状況(西から)/SD205土器出土状況(北から)
SK207±	-器出土状況(南から)/須恵器鹿頭部出土状況(北から)/調査地点(調査前・南東から)
学内説明	月会風景/現地説明会風景
	挿図目次
第1図	遺跡の位置(1p)
第2図	周辺遺跡分布図·····(4p)
第3図	鹿頭部実測図(18p)
第4図	石器·石製品実測図 ······(18p)
	表目次
第1表	周辺遺跡一覧表·····(5p)
第2表	出土土器・土製品観察表 (1) ·····(19p)
第3表	出土土器・土製品観察表 (2) ·····(20p)
第4表	出土土器・土製品観察表 (3) ·····(21p)
	図版目次

図版1 上層遺構平面図

- 図版 2 下層遺構平面図
- 図版3 調査区北壁土層断面図
- 図版 4 SH01 · 02 平 · 断面図
- 図版 5 SH03 · 04 · 05 平 · 断面図
- 図版 6 SH06・SB01・02 平・断面図
- 図版 7 SD201 · 202 · 205 · 207 · 208 平 · 断面図
- 図版 8 SD203 · 204 · 206 · 209 · 210 平 · 断面図
- 図版 9 SD213 平·断面図
- 図版10 SD211・212・SK201 平・断面図
- 図版11 SK202 · 203 · 207 平 · 断面図
- 図版12 SK204 · 205 · 206 · 208 · 209 平 · 断面図
- 図版13 遺構出土遺物 1
- 図版14 遺構出土遺物 2
- 図版15 遺構出土遺物 3
- 図版16 遺構出土遺物 4
- 図版17 遺構出土遺物 5
- 図版18 遺構出土遺物 6
- 図版19 遺構出土遺物 7
- 図版20 包含層出土遺物 1
- 図版21 包含層出土遺物 2

写真図版目次

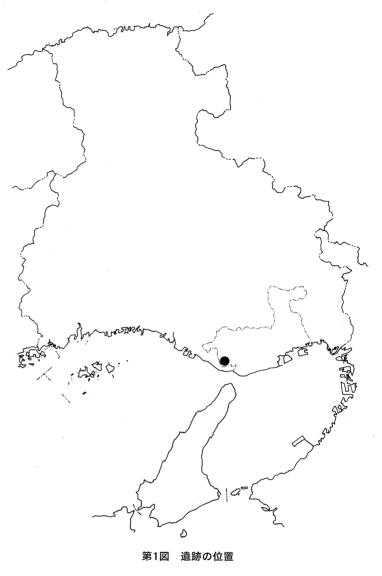
- 写真図版1 調査地点遠景 上空西から/調査区全景 上空北東から
- 写真図版 2 上層遺構全景 東から/上層遺構北から/下層遺構全景西から
- 写真図版3 下層遺構部分 北から/竪穴住居・溝 北から/竪穴住居・溝西から
- 写真図版 4 SH01 北から/SB01 南西から/SB02 南西から
- 写真図版 5 SK203 西から/SK201土器出土状況 東から/SX01土器出土状況 西から
- 写真図版 6 出土遺物 1
- 写真図版7 出土遺物2
- 写真図版8 出土遺物3
- 写真図版 9 出土遺物 4
- 写真図版10 出土遺物5
- 写真図版11 出土遺物6
- 写真図版12 出土遺物7
- 写真図版13 出土遺物8
- 写真図版14 出土遺物 9
- 写真図版15 出土遺物10

第1章 はじめに

第1節 調査に至る経緯

平成5年4月に開学した兵庫県立 看護大学 (現:兵庫県立大学看護学 部、明石キャンパス)は、明石川下 流域でも屈指の集落跡である吉田南 遺跡の範囲内に位置している。平成 14年、大学では健康に関するニーズ の多様化を受けて、地域の特性にあ った質の高いケアサービス提供する ことを目的とした実践研究施設 (現:地域ケア研究所)を構内に整備 することを決定した。施設の予定地 としては、当時の大学主要施設に南 接する駐輪場が選ばれたが、この地 点も周知の埋蔵文化財包蔵地である 吉田南遺跡の一部にあたることが予 想された。

そもそも吉田南遺跡は、昭和51年 に看護大学北隣に位置する神戸市玉 津環境センターの建設に伴う発掘調 査で発見された遺跡で、古墳時代の 集落跡や明石郡衙の可能性が指摘さ れる奈良時代の遺構群等が検出され ている。その後、県立成人病センタ ーの設置時や農業試験場跡地利用計



画策定時における確認調査、県立看護大学建設に伴う調査の結果、弥生時代から中世・近世にかけての 集落跡・水田跡等が広範な範囲にわたって検出されている。

今回の事業地は看護大学設置時の調査におけるA地区の南側、B地区の西側に当たる。その際の調査では、弥生時代から近世にいたる遺構が検出され、A地区南端では4面、B地区の近接地点では2面の遺構面が調査の対象地になった。したがって、今回の事業地内にも遺構の存在が予想され、兵庫県教育委員会が発掘調査を実施することとなった。

第2節 確認調査・本発掘調査の経過

確認調査

前述のように、事業予定地には遺構の存在が予想されたが、これまでの調査成果からみて遺構面の起 伏が激しい可能性があり、調査すべき面数も確定できないため、遺跡の範囲・内容等の概要を把握する 目的で確認調査を実施した。

調査は現存する建物および地下埋設物を避けるかたちで、事業地東南隅に幅2m、長さ15mのトレンチを設定し、バックホウによる掘削を実施した。人力にて平面・断面の精査を行い、遺構・遺物の発見に努めた。

調査の結果、現地表面から1.2m下で暗黄灰色シルト層を検出し、おおむねその上面で中世の遺構が、 下面で弥生時代末から古墳時代の遺構・遺物が検出された。

調 査 期 間 平成15年7月15·16日

調查担当者 企画調整班 主查 甲斐昭光

調查第1班 主查 鐵 英記

本発掘調査

確認調査の結果、中世(上層)および弥生時代末から古墳時代(下層)の2遺構面が確認されたため、研究所建設によって埋蔵文化財が影響を受ける840㎡の範囲を本発掘調査することとなった。

調査地点は駐輪場として利用されていた部分を含むため、アスファルト舗装・コンクリート基礎等の 構造物を撤去した後、バックホウにより上層遺構面直上まで慎重に掘り下げた。人力による遺構精査・ 検出を行った後、写真撮影および遺構の実測を行った。

続いて、人力によって下層遺構面まで掘り下げ、人力により遺構精査・検出を実施した。それと並行して、写真撮影・遺構細部の実測を行うとともに、写測エンジニアリング株式会社に委託して、ヘリコプターによる空中写真の撮影および航空測量を実施した。遺跡の掘削土は校内運動場の一角に仮置きした。残土の運搬にあたっては、キャンパス内を通行するため、夏休み期間中とはいえ学生・教職員の往来もあることから安全には留意し、粉塵等の発生も抑えるよう努めた。最後に、調査地点を埋め戻して調査を完了した。

なお、調査期間中の9月29日には看護大学学内対象の遺跡説明会、10月4日には一般対象の遺跡説明会 を実施し、調査成果を県民に公開するよう努めた。

調 査 期 間 平成15年8月18日から10月16日

調查担当者 調查第2班 久保弘幸

調査第1班 鐵 英記

第3節 整理作業の経過

吉田南遺跡の整理作業は、兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所において、平成17年度にネーミング・土器接合・復元補強・実測・トレース・レイアウト・写真撮影を実施した。

 整理担当職員
 整理保存班
 主
 査
 別府洋二
 主査
 藤田
 淳
 主任
 岡本
 一秀

 整理技術嘱託員
 長谷川洋子
 早川亜紀子
 伊藤ミネ子
 家光
 和子(ネーミング)

眞子ふさ恵 島村 順子 木村 淑子 中田 明美

小野 潤子 三好 綾子 奥野 政子 又江 立子

荒木由美子藤池かづさ(土器接合、復元補強)

岸野奈津子(実測・トレース・レイアウト補助)

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 遺跡の位置

吉田南遺跡は神戸市西区玉津町吉田に位置する。近傍を瀬戸内海側と北播磨・丹波を結ぶ国道175号線が南北に走り、神戸・明石・姫路を結ぶ第2神明道路や国道2号線が東西に敷設されており、現在における交通の要衝となっている。

この地域が、現在のみならず古くから交通の要衝であったことは歴史的にも確認されている。神戸市 西区は神戸市垂水区・明石市域も含め、旧国名で言うと播磨の東端である明石郡にあたり、古代山陽道 も敷設されていた。玉津町吉田付近はほぼその中央に位置し、吉田南遺跡は明石郡衙あるいは明石駅家 の推定地の一つに挙げられている。

第2節 地理的環境

吉田南遺跡は現在の海岸線から約2.5km遡った明石川下流域右岸の低位段丘面に立地している。

遺跡の存在する明石平野は、六甲山地の西側に位置し、丘陵や段丘を刻む狭長な谷部に展開している。 平野を流れる明石川は、長坂山に源を発し、櫨谷川・伊川と合流して播磨灘に注いでいる。

前葉和子氏の研究によると、明石川流域の中流域から下流域にかけては丘陵に接して段丘が発達している。これらの段丘は形態的な特徴から6面に分類できるが、現在のところその編年や対比が確立しているわけではない。

また、流域沿いの狭隘な谷部に展開する沖積平野は、完新世段丘と現氾濫原に分類される。完新世段丘は比較的新しい時期に形成されたため、段丘化以前の微地形を読みとることができ、古くからの集落が凸地に営まれていることがわかる。

第3節 歷史的環境(第2図:表1)

旧石器·縄文時代

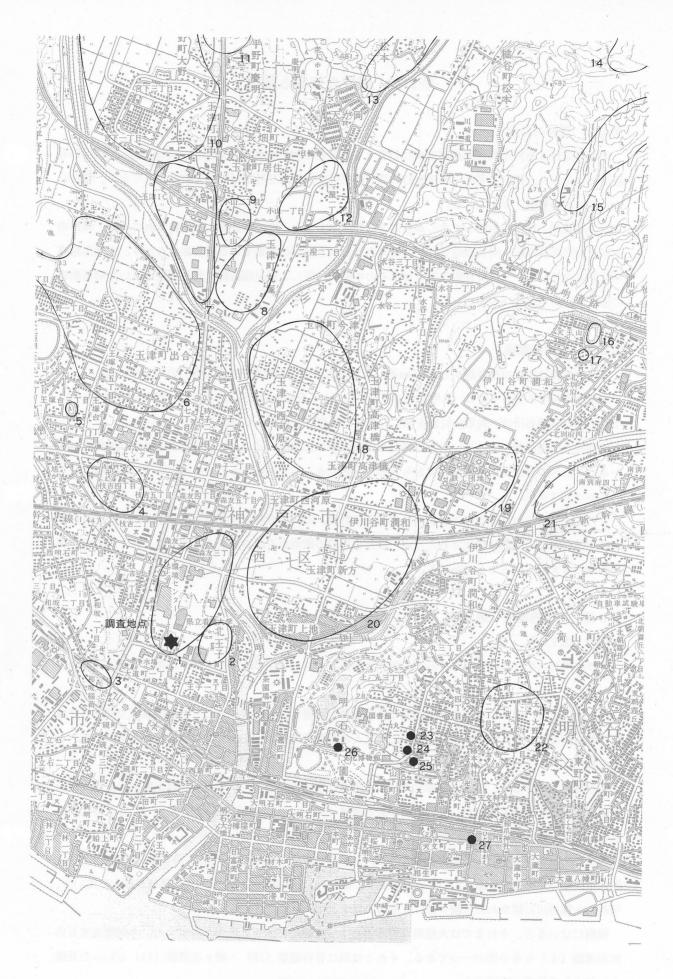
野々池周辺(出合遺跡:6)で石器の採集は報告されているが、旧石器時代の確実な遺跡は見つかっていない。

縄文時代では、明石川支流の伊川流域で長坂遺跡が調査されている以外に、明石川流域で目立った集落の調査例はないが、丘陵縁辺部を中心に縄文人の活動域が広がっていたことは確かなようである。 弥生時代

弥生時代にはいると、明石川流域における遺跡数は増加を始める。前期古段階の土器が出土した吉田 遺跡(4)は学史上名高いが、その他にも新方遺跡(20)や玉津田中遺跡(10)といった弥生時代の拠 点集落となる遺跡の形成が吉田遺跡よりやや遅れて始まる。

中期になると沖積平野に立地する新方遺跡、玉津田中遺跡、南別府遺跡(21)等が集落規模を拡大し、拠点集落としての体裁を整えていく。中期後半になると、沖積地から段丘上へと集落域が拡大していき、明石川と櫨谷川に挟まれた丘陵一帯にも集落が営まれる。

後期にはいると、それまでは大規模な集落がなかった場所に新たな集落が出現する。今回報告する吉田南遺跡(1)もその例の一つである。それとは別に青谷遺跡(15)・城ヶ谷遺跡(14)といった丘陵上に営まれる集落が出現する。



第2図 周辺遺跡分布図

古墳時代

集落は弥生時代後期に集落が営まれていた新方遺跡、玉津田中遺跡、吉田南遺跡等で引き続き人々の 生活が認められる。

明石川流域では明確な首長系列を示すような大規模古墳は確認されていない。しかし、前期の古墳としては支流の伊川水系で、天王山古墳(16)や最近の調査で石製腕飾類が多数出土した白水瓢塚古墳(17)が存在している。中期になると明石川中流域の盟主墳と考えられる王塚古墳(5)が出現する。後期にはいると丘陵部に群集墳が形成される。そして、出合遺跡で初期須恵器が焼かれた可能性が指摘されているが、この頃から専業的な手工業生産が始まり、明石市の赤根川窯、高丘窯といった須恵器窯がそれぞれ生産を開始する。

古代

飛鳥時代から奈良時代に関しては、前代に登場し四天王寺の鴟尾を焼いたことで知られる高丘窯跡群や白鳳時代創建の寺院跡と考えられる太寺遺跡(22)以外は良好な資料・遺跡に恵まれていなかったが、近年新たな知見がもたらされている。

和坂遺跡(3)では古代山陽道の道路側溝と思われる溝が検出されている。太寺遺跡は寺院跡と考えられているが、同時に播磨国府系瓦の出土もあり、吉田南遺跡と並んで明石郡衙・明石駅家の推定地である。また、同遺跡の南側に位置する天文町遺跡では播磨国府系瓦が出土しており、明石川下流に律令期の重要拠点があったことを伺わせる。

中世

院政期の京都・六勝寺に瓦を供給していた瓦陶兼業窯である神出古窯跡群や神出古窯跡群に変わって 須恵器生産中心となる魚住古窯跡群等、明石川流域は中世前期における一大窯業生産地であった。

それに対応するように、二ッ屋遺跡(12)では平安時代末の屋敷地が発見されており、平家の被官であった在地領主層のものではないかと考えられている。また、玉津田中遺跡においても存続時期は短いものの中世居館が見つかっている。

番号	遺跡名	時期	番号	遺跡名	時期
1	吉田南遺跡	弥生時代~中世	15	青谷遺跡	旧石器時代~弥生時代
2	北王子遺跡	弥生時代・平安時代	16	天王山古墳	古墳時代
3	和坂遺跡	古墳時代~中世	17	白水瓢塚古墳	古墳時代
4	吉田遺跡・枝吉城跡	弥生時代・中世	18	今津遺跡	- 弥生時代~古墳時代
5	王塚古墳	古墳時代	19	潤和遺跡	古墳時代
6	出合遺跡	旧石器時代~中世	20	新方遺跡	弥生時代~中世
7	居住・小山遺跡	弥生時代~中世	21	南別府遺跡	縄文時代~中世
8	丸塚遺跡	弥生時代•中世	22	太寺遺跡	奈良時代~中世
9	小山遺跡	弥生時代•中世	23	上ノ丸西貝塚	弥生時代
10	玉津田中遺跡	弥生時代~近世	24	上ノ丸貝塚	弥生時代~古墳時代
11	芝崎遺跡・福中城跡	弥生時代・近世	25	上ノ丸遺跡	弥生時代
12	二ッ屋遺跡	弥生時代~中世	26	人丸塚古墳	古墳時代
13	菅野遺跡	弥生時代~古墳時代	27	天文町遺跡	奈良時代
14	城が谷遺跡	弥生時代			

表1 周辺遺跡一覧表 (表の番号は図2の番号と一致する)

参考文献 前葉和子「玉津田中遺跡周辺の地形環境」『玉津田中遺跡調査概報 I 』(1984) 兵庫県教育委員会編『玉津田中遺跡-第3分冊』(1995)

第3章 調査の成果

第1節 基本層序(図版3)

調査地は水田を埋め立てて駐輪場として利用していた。0.8から1mある盛土を取り除くと、一部で盛 土前の耕作土が残存している(2層)。

その下には浅黄色から灰黄色のシルト・細砂($3\sim6$ 層)が堆積している。これらの層は中世から近世にかけての水田土壌と考えられる。

これらを除去した時点で、暗灰黄色粘質シルト層(7層)が現れ、その上面で検出されるのが第1遺構面である。第1遺構面がのる暗灰黄色層には弥生時代末から古墳時代の遺物が包蔵されており、これを除去すると黄灰色粘質シルト層(8層)が現れ、第2遺構面のベースとなっている。第2遺構面は西側に向かって少しずつ下がっており、今回の調査区東半が微高地状の高まりになっていたと考えられる。

第2節 遺構

第1遺構面(図版1、写真図版2)

この遺構面では溝を11条検出した。遺構の先後関係をみると三つの段階があるが、遺構の埋土はいずれも灰黄色のシルト層で、営まれた時期の差はほんの僅かなものではないかと考えられる。SD01・02・11の3条以外の溝は、この地域の条里型地割であるN 20°Eに沿っていると思われる。

出土遺物の数は少なく、内容的にみても須恵器・土師器の細片以外の遺物は出土していない。

SD01

調査区北東隅から調査区を斜めに横断する形で検出した。 $SD03\sim05\cdot11$ を切り、 $SD06\sim10$ に切られている。幅は0.4m、検出面からの深さは $0.03\sim0.05$ mである。

SD02

調査区東端のほぼ中央から調査区南西隅に向かって走る。2ヵ所で浅くなってとぎれてはいるが、SD01とほぼ平行しており、SD03~05を切り、SD06~10に切られている。幅は0.4m、検出面からの深さは0.04~0.06mである。

SD03

調査区中央部付近で南北に走る。 $SD04 \cdot 05$ とほぼ平行し、 $SD01 \cdot 02$ に切られている。検出した幅は $0.4 \sim 0.6$ m、検出面からの深さは $0.06 \sim 0.08$ mである。

SD04

調査区中央部付近で南北に走る。SD03・05とほぼ平行し、SD01・02に切られている。浅くなって 1 カ所でとぎれる。検出した幅は $0.4\sim0.6$ mで、検出面からの深さは $0.04\sim0.05$ mである。

SD05

調査区中央部付近で南北に走る。SD03・04とほぼ平行し、SD01・02に切られている。浅くなって2

ヵ所でとぎれる。検出した幅は $0.3\sim0.6$ mで、検出面からの深さは $0.04\sim0.06$ mである。

SD06

SD05から東へ3m離れた場所で、SD03~05同様に南北に走る。SD01・02・11を切っている。検出した幅は0.5~1.2mで、検出面からの深さは0.06~0.1mである。幅や深さに変化が認められることから、ほぼ同じ場所で何度も掘り返されたのではないかと考えられる。

SD07

SD06から東へ約2.5m、SD08から西へ約3mの場所を南北に走る。 $SD01 \cdot 02 \cdot 11$ を切っている。検出した幅は $0.6 \sim 1.1$ mで、検出面からの深さは $0.06 \sim 0.08$ mである。幅や深さに変化が認められることから、ほぼ同じ場所で何度も掘り返されたのではないかと考えられる。

SD08

SD07から東へ約3m、SD08から西へ約3mの場所を南北に走る。SD01・02・11を切っている。検出した幅は $0.4\sim1.1$ mで、検出面から深さは $0.04\sim0.07$ mである。幅や深さに変化が認められることから、ほぼ同じ場所で何度も掘り返されたのではないかと考えられる。土師皿(55)が出土している。

SD09

SD08から東へ約3m、SD10から西へ約2.7mの場所を南北に走る。 $SD01 \cdot 02 \cdot 11$ を切っている。検出した幅は $0.5 \sim 1m$ で、検出面からの深さは $0.06 \sim 0.09m$ である。幅や深さに変化が認められることから、ほぼ同じ場所で何度も掘り返されたのではないかと考えられる。

SD10

SD09から東へ約2.7m、調査区東端から西へ約3mの場所を南北に走る。SD01・02・11を切っている。 検出した幅は $0.3\sim1$ mで、検出面からの深さは $0.06\sim0.09$ mである。幅や深さに変化が認められることから、ほぼ同じ場所で何度も掘り返されたのではないかと考えられる。

SD11

調査区東北隅からSD01に重なるように走る。SD01・06~10に切られ、調査の区ほぼ中央で消失する。 検出した幅は0.4m、検出面からの深さは $0.03\sim0.05m$ である。

第2遺構面(図版2、巻首図版1、写真図版2)

この遺構面では竪穴住居、ピット、土坑、溝および土器溜まりを検出した。遺構の状況から考えて、かなりの削平を受けており、特に竪穴住居跡の遺存状況は悪い。同一の遺構面として調査は行ったが、営まれた遺構の時期は3時期にわたるものと考えている。

また、遺構の帰属時期の呼称については、玉津田中遺跡の調査成果を参考にし、庄内式併行期を弥生時代後期末、布留式併行期を古墳時代前期として記述している。

竪穴住居

SH01~06の6棟を検出したが、ほとんどが周壁溝のみの検出であり、住居跡に伴うと考えられる遺物の出土もほとんど認められなかった。SH01を切っているSK203やSH02~04を切っているSD206の時期が弥生時代後期末と考えられるので、住居群の時期は弥生時代後期後半に納まるのではないかと思われる。ただし、円形を呈すると思われるSH05のみはもう少し時期がさかのぼる可能性がある。

SH01 (図版 4、写真図版 4)

調査区中央南端で検出した。一辺約5mの方形で、一部が調査区外に伸びる。SK203に周壁溝が切られている。

周壁溝は東辺以外の3辺が掘り直されている。幅は0.4m、検出面からの深さは0.08mで非常に残りが悪い。主柱穴は4基あり、その配置は一辺2.12mのほぼ正方形になる。柱穴の直径は0.4m前後、柱痕の直径が0.18m前後、検出面からの深さは $0.16\sim0.32$ mである。中央土坑があり、南北1.12m、東西1.08mの歪んだ円形を呈している。

出土遺物としては、床面から台石(S3)が検出された。

SH02 (図版4:写真図版3)

SD201の東側に位置し、SD206とSD208に北東・南東の隅を切られている。南北4.56m、東西4.4mの 方形を呈する。周壁溝のみを検出し、主柱穴・中央土坑といった施設を確認することができなかった。 周壁溝の幅は0.24m、検出面からの深さは0.05mである。また、出土遺物も認められなかった。

SH03 (図版5:写真図版3)

SH02の北側に隣接して、SH04と重なるように検出した。南北4.8m、東西1.92m以上の方形を呈する。 周壁溝のみを検出し、主柱穴・中央土坑といった施設を確認することができなかった。周壁溝の幅は 0.32m、検出面からの深さは0.07mである。また、出土遺物も認められなかった。

SH04 (図版5:写真図版3)

SD201の東側で、SH03と重なるように検出した。SD206・SH06に切られており、SK204・205と平面的に重複する。南北4.4m、東西5.44mの方形を呈する。周壁溝のみを検出し、主柱穴・中央土坑といった施設を確認することができなかった。周壁溝の幅は0.25m、検出面からの深さは0.06mである。また、出土遺物も認められなかった。

SH05 (図版5:写真図版3)

調査区の北東隅近くで検出した。SB02・SD201と平面的に重複する。今回検出した中では唯一の円形を呈すると思われる住居で、直径が8m程度と考えられる。周壁溝のみを検出し、主柱穴・中央土坑といった施設を確認することができなかった。周壁溝の幅は0.15m、検出面からの深さは0.04mである。また、出土遺物も認められなかった。

SH06 (図版 6:写真図版 3)

SH04・SD210を切り、SD203・209に切られている。南北4.4m、東西4.32mの方形を呈する。周壁溝のみを検出し、主柱穴・中央土坑といった施設を確認することができなかった。周壁溝の幅は0.32m、検出面からの深さは0.16mである。また、出土遺物も認められなかった。

掘立柱建物

竪穴住居の北側で2棟の掘立柱建物を検出した。遺物が出土していないので、帰属時期を決することはできないが竪穴住居よりも後出のものと考えている。また、掘立柱建物と認識した以外にも、いくつか柱穴が見つかっている。遺物が出土していないため、帰属時期は不明と言わざるを得ないが、一部の柱穴が竪穴住居を切っていることから、2棟の掘立柱建物と同じく、住居群よりは新しい時期のものと考えている。

SB01 (図版 6:写真図版 4)

SD205の東、SK202の北に位置する。一部調査区外に伸びると思われる 2 間 \times 2 間以上の掘立柱建物である。梁間は3.84m、桁行3.92m以上を測る。柱穴の直径は0.24mで、検出面からの深さは0.08~0.16mである。柱穴から遺物は検出されていない。

SB02 (図版 6:写真図版 4)

SH06の北側に位置し、一部SH05と平面的に重複する。 1 間×1 軒の掘立柱建物で、規模は2.0×2.4mである。柱穴の直径は0.24mで、検出面からの深さは0.08~0.24mである。柱穴から遺物は検出されていない。

溝

主として、調査区東半分に集中して検出された。出土している遺物からみて、弥生時代後期末、古墳時代前期、古墳時代後期の3時期のものが混在している。南北に流れるものがほとんどを占めるが、例外的に東西方向に流れるものもある。

SD201 (図版7、巻首図版2、写真図版3)

調査区東半の遺構集中地点のほぼ中央を南流する。SH05・SD202・SD205を切っている。

幅 $1.6\sim2.3$ mで、検出面からの深さは1.6mを測る。上部0.7mに炭化物を含んだ黒褐色の細砂・シルト層が堆積しており、完形品も含めた土器類はほとんどがこの層から出土している。

出土遺物には壺($1\sim10\cdot30$)・甕($11\sim19$)・鉢(20)・高坏($21\sim27$)・脚台(28)・イイダコ壺(29)があり、細片のため図化はできなかったが製塩土器も僅かながら出土している。この溝が埋没した時期は古墳時代前期と考えられる。

SD202 (図版7:写真図版3)

東西方向に走る溝である。SD201に切られており、検出長は約6.5m、幅0.42m、検出面からの深さ0.24mを測る。埋土は黄灰色~灰黄色のシルト~シルト混じり細砂で、遺物はほとんど出土していない。

SD203 (図版8:写真図版3)

調査区東端を南流する。SH06を切っている。幅 $0.35\sim0.95$ m、検出面からの深さは0.19mを測る。埋土は黄灰色の年質シルト〜細砂混じり粘質シルトである。

出土遺物には須恵器坏身 (31) ・高坏蓋 (32) ・無蓋高坏 (33) がある。古墳時代後期に埋没したと 考えられる。

SD204 (図版8:写真図版3)

調査区東端を南北に走る。SD209を切り、調査区北東隅で肩部が曖昧になり、消失する。幅1.6m、検 出面からの深さ0.12mを測る。埋土は黄灰色のシルト質極細砂である。

出土遺物には弥生土器の甕 (34)、須恵器の坏蓋 (35) があり、埋没した時期は古墳時代後期と考えられる。

SD205 (図版7:巻首図版2)

SD201に切られたL字形の溝である。埋土は黄灰色のシルト~粘質シルトである。

出土遺物には鉢 (38~40)、高坏 (41)、器台 (42) がある。埋没した時期は弥生時代後期末と考え られる。

SD206 (図版8)

 $SH02\sim04$ を切って、南北に直線的に走る。検出長は約13m、幅 $0.4\sim0.85$ m、検出面からの深さは0.22mを測る。埋土は黄灰色のシルト〜細砂混じり粘質シルトである。

出土遺物には壺(43・44)、甕(45~47)、鉢(48)、器台(49)と韓式系土器の壺(50)がある。埋没した時期は弥生時代後期末と考えられる。

SD207 (図版7)

SD201の東側に位置する短い溝である。検出長は1.2m、幅0.2m、検出面からの深さは0.09mである。 埋土は黄灰色シルトである。

SD208 (図版7)

SD201の東側に位置する短い溝である。SH02を切っている。検出長は3.2m、幅0.5m、検出面からの深さは0.11mを測る。埋土は灰黄褐色極細砂である。

SD209 (図版8)

SD203と204の間に位置し、SH06を切り、SD204に切られる。幅は $0.75\sim1.2$ m、検出面からの深さは0.18mである。埋土は灰黄褐色細砂と褐色極細砂である。

出土遺物には須恵器坏身(51)・ 聰(52)がある。埋没した時期は古墳時代後期と考えられる。

SD210 (図版 8)

SD203と209の間に位置し、SH06・SD204に切られる。検出長約4m、幅0.4m、検出面からの深さ

0.05mを測る。埋土は暗灰黄色粘質シルト混じり粗砂である。

SD211 (図版10)

調査区西端に位置する。東西方向に走り、検出長は6.4m、幅0.25~0.4m、検出面からの深さ0.06mを 測る。埋土は黄灰色粘質シルトである。

出土遺物には弥生時代後期末の鉢(53)がある。

SD212 (図版10)

SD211の北側に位置する短い溝である。検出長は約4.2m、幅 $0.4\sim0.7$ m、検出面からの深さは0.08mである。埋土は黄灰色粘質シルトである。

SD213 (図版9)

調査区の中央西寄りを北東から南西に縦断する。幅 $1.1\sim1.8$ m、検出面からの深さは0.12mを測る。埋土は暗灰黄色粘質シルトである。

出土遺物には弥生時代後期末の高坏(54)がある。

土坑

検出深度が0.4mを越えるしっかりした土坑(SK201・202・207)と0.1m前後の浅い土坑(SK204~206・208~210)が混在している。前者については出土遺物からみて古墳時代のものである可能性が高いが、浅いものは出土遺物がなく、帰属時期は不明である。

SK201 (図版10:写真図版5)

SD202の北側に位置する。周囲に複数のピットがあるが、それらとの関係は不明である。平面形は東西1.08m、南北0.94mの歪んだ円形を呈する。検出面からの深さは0.48mを測る。下部には炭化物を含む層が堆積している。

出土遺物にはオリーブ灰色シルト層に包蔵されていた土師器の粗製小型丸底壺(58・59)がある。1個は遺構掘削の際に土と一緒に取り上げてしまったが、本来は土坑のほぼ中央に2個並べて置かれていたと思われる。古墳時代前期のものと思われる。

SK202 (図版11)

SB01の南側に位置する。平面形は東西1.08m、南北1.16mの歪んだ円形を呈する。検出面からの深さは0.57mを測る。底には炭化物を含む層が堆積している。規模・堆積土ともSK201との共通性がみられるが、遺物が出土していないため所属時期は不明である。

SK203 (図版11:写真図版5)

SH01の周壁溝を切っている。平面形は南北0.75m、東西0.83mの歪んだ隅丸方形を呈する。検出面からの深さは0.15~0.3mの二段掘状になっており、埋土は灰黄褐色極細砂層である。検出時の状況からSH01とは別の遺構と考えているが、SH01の住居内土坑である可能性も捨てがたい、

出土遺物には弥生土器の甕(61~63)があり、弥生時代後期末のものと考えられる。

SK204 (図版12)

SH04と平面的に重複する。平面形は南北0.68m、東西0.8mの楕円形を呈する。検出面からの深さは 0.14m、埋土は黄灰色粗砂・細砂混じりシルトである。遺物は検出されていない。

SK205 (図版12)

SH04と平面的に重複し、SD206に切られている。残存部分は東西0.96m、南北0.7mの隅丸方形で、検出面からの深さは0.1m、埋土はSK204と同じく黄灰色粗砂・細砂混じりシルトである。遺物は検出されていない。

SK206 (図版12)

調査区東端にあり、ほとんどの部分が調査区外にあると思われる。検出できたのは南北2.1m、東西 2.6mの隅丸方形の一角で、検出面からの深さは0.12mである。埋土は黄灰色細砂混じりシルトである。

SK207 (図版11: 巻首図版2)

SH01とSD213の間に位置する。平面形は南北1.0m、東西0.69mの楕円形を呈する。検出面からの深さは0.48mで、埋土は上半に褐灰色~灰黄褐色細砂・極細砂が堆積し、下半は主として黒褐色のシルト~粘土が堆積している。

最下層から須恵器の坏蓋(60)が出土している。

SK208 (図版12)

調査区の西端に位置する。大半が調査区外に存在すると思われる。検出できたのは、南北4.1m、東西 0.7mの範囲で、検出面からの深さは0.1mである。断面形は浅い皿状を呈し、埋土は黄灰色細砂混じりシルトである。

SK209 (図版12)

SH01の西側に位置し、大半が調査区外に存在すると考えられる。検出できたのは南北0.4m、東西2.35mの範囲で、検出面からの深さは0.12mである。断面形は浅い皿状を呈し、埋土は黄灰色粗砂混じり粘質シルトである。

土器溜まり

SX01 (写真図版 5)

調査区東端で検出した。溝状の遺構とも考えたが、最終的な平面プランは不明である。調査区東壁内も含め、南北1m、東西2mの範囲で完形に近い土器が集中して出土した。調査時は二つの遺構があると考えていたが、双方から出した土器で接合するものが多かったため、一つの土器溜まりと考えるにいたった。

弥生時代後期末の甕 (64~72)、鉢 (73・74) 高坏 (75・76)、器台 (77・78) が出土している。

第3節 遺物

本節では、当遺跡出土遺物を最初に各遺構単位で記述し、その後で包含層出土の遺物にも触れる。なお、遺構の項でも記述したが、竪穴住居跡からはSH01で石器が1点出土している他は、遺物を検出することができなかったため、ここでは触れるのは下層遺構面の溝からの出土した遺物が主となる。

土器・土製品

遺構出土の土器

SD201出土土器(1~30:図版13~15、写真図版6~9)

1は細頸壺である。1は扁平な球形の胴部に細い頸部が付くと思われる。2~6は直口壺と考えている。2は丸みを帯びた体部に外反する口縁部が付く。甕と考えることもできるが、体部最大径に対して口縁径が小さいため壺とした。3は縦に長い楕円球形の体部に直線的に開く短い口縁部を持つ。4は球形の体部から鋭く屈曲して外反気味に立ちあがる口縁部を持つ。口縁部は頸部直上で一度厚みを増し、稜を形作る。5は球形の体部から外側に少し開いて立ちあがる口縁部を持つ。6は球形の体部に口縁部は直立して立ちあがる口縁部を持ち、端部は外反して終わる。

7~9は小型丸底壺である。7は丸みを帯びた体部から大きく開く口縁を持つ。全体に歪んでいる。8はやや扁平な丸みを帯びた体部に直立して立ちあがる口縁部を持つ。9はやや歪んだ球形の体部から内彎気味に開く口縁を持つ。

11~19は甕である。11はやや長い体部に単純に外反する口縁部を持つ。口縁端部は部分的ではあるが 内側に肥厚する。12は球形の体部から鋭く屈曲して伸びる口縁部を持つ。口縁端部は丸く収める。13は 球形の体部からやや緩く「く」の字状に折れる頸部を持ち、口縁部は斜め上方に開く。口縁部は厚みが あり、内側に折り返したような痕跡が残る。14は球形の体部に単純に外反する口縁が付く。16も丸みを 帯びた体部に単純に外反する口縁が付く。17は球形の体部に単純に外反する口縁が付く。18は底部が僅 かに突出した球形の体部を持ち、直立気味に立ちあがった口縁部は端部を外反させる。19は鋭く屈曲し た頸部から口縁部が直線的に開き、口縁端部を内側に肥厚させる。

20は浅い丸底の体部から大きく開く口縁部を持つ鉢である。

21から27は高坏である。21は浅い皿状の体部に大きく外反する口縁部が付く。口縁部と体部の境界には明瞭な段を持つ。22も浅い皿状の体部に大きく外反する口縁部が付くが、口縁部と体部の段は不明瞭である。23は浅い碗状の坏部を持ち、低い位置で大きく開く裾部を持つ。脚部内面には螺旋状に粘土紐を積み上げた痕跡が明瞭に認められる。24・25はやや深い椀状の坏部を持つ。24は屈曲せずに大きく開く裾部を持ち、25は直線的に広がる脚柱部から屈曲して大きく開く裾部を持つ。24の脚部内面にも螺旋状に粘土紐の跡が残る。26は25とほぼ同じ形態であるが、坏部の内底が平たくなっており、脚部内面に23・24と同じく螺旋状に積み上げた粘土紐の痕跡がある。27は平たい内底をもつ椀状の坏部に緩やかに開く脚部が付く。脚内面には23・24・26と同様に粘土紐の痕跡がある。

28は脚部である。短い中実の脚柱部を持つ。

29はイイダコ壺である。口縁直下に紐孔が一ヵ所残存しており、ナデで仕上げている。

10は溝が切り込まれていたベース面から出土した壺の頸部である。肩部に列点文と波状文を巡らせている。30は溝の上層から出土した広口壺の口縁部である。口縁は短く外反し、端部を肥厚させて一面に刻み目を施している。

また、細片のため図化はできなかったが、製塩土器も出土している。

10・30を除いて、古墳時代前期(布留式並行)の土器群であると考える。

SD203出土土器 (31~33: 図版15、写真図版9)

31は須恵器の坏身である。平底で深い体部を持ち、受部は水平に伸びる。立ち上がりは高く、肥厚した端部は内傾する。体部外面にヘラ記号がある。32は高坏の蓋である。つまみは平坦で、中央に突起がある。天井部と立ち上がり部は明確に区別されるが、稜は低い。口縁端部は内傾する。33は無蓋高坏の口縁部である。外反気味に開く口縁を持ち、2条の突帯とやや不明瞭な櫛描波状文を巡らせる。

陶邑編年のTK23~TK47型式に並行すると思われる。

SD204出土土器 (34·35: 図版15)

34は小さな底部と寸詰まり体部を持ち、口縁部が直線的に開く小型の甕である。

35は須恵器の坏蓋である。平坦な天井部を持ち、天井部と立ち上がり部の境界には明瞭な稜がある。 立ち上がり部は直立し、端部は内傾する。

34は弥生時代後期末、35はSD203の須恵器よりやや新しいと思われる。

SD205出土土器 (36~42: 図版16、写真図版9·10)

36は外反して開く口縁を持つ大型の甕である。37は倒卵形の体部に単純に外反する口縁部が付く甕である。

38は丸底の鉢である。39はカップ状の体部に短い脚台が付く。40は底部がやや突出し、体部にタタキを施す鉢である。

41は浅い皿状の坏部から口縁が大きく開く高坏である。

42は二重口縁状の受部に直線的に開く脚部が付く器台である。段部にヘラ描き波状文を2条巡らせる。 いわゆる「精製タイプの淡路型器台」である。

これらの土器は弥生時代後期末に属するものと考えられる。

SD206出土土器(43~50:図版16·17、写真図版9·10)

43は広口壺である。直立気味に伸びる頸部から口縁部は外反気味に大きく開く。口縁端部は上方に肥厚させ、外側に面を作る。そこに現状で2個一組の円形浮文が2ヵ所残存している。頸部と体部の境界には刻みを施した断面三角形の貼付突帯を巡らせている。44は斜めに開く頸部から、さらに大きく開く口縁部を持っていたと思われる。体部は大きく腰が張る。

45はやや小型の甕である。平底で倒卵形の体部から口縁部は外反して緩やかに開く。口唇部には刻み目を施している。46は胴の張った体部に外反する口縁が付く。頸部内面に粘土紐の痕跡が残る。47は倒卵形の体部に単純に外反する口縁が付く。体部のタタキは口縁部直下までおよぶ。

48は平底の底部から内彎気味に立ちあがる体部を持つ鉢である。摩滅が著しく調整は不明である。

49は大きく開いた二重口縁状の受け部を持ち、脚部がまっすぐ開く器台である。摩滅が著しく調整は不明だが、一部にヘラミガキが残っている。いわゆる「精製タイプの淡路型器台」である。

50は韓式土器の壺である。格子タタキを施した肩の張った体部から直立する頸部が伸び、口縁は外反

して開く。胎土は他の土器と同じである。

これらの土器は弥生時代後期末に属するものと考えられる。

SD209出土土器 (51·52:図版17、写真図版10)

51はやや浅い底部からほぼ水平に広がる受部を経て、立ち上がり部は外反気味に伸びる。端部は内側に浅く傾斜し面を持つ。52は趣の頸部と思われる。屈曲部の上下に櫛描波状文を巡らせ、内外面に自然釉が掛かる。

陶邑編年のTK47型式に併行するものと考えられる。

SD211出土土器 (53: 図版17)

53は胴の張る体部から屈曲して開く口縁部を持つ大型の鉢である。

弥生時代後期末の土器と考えられる。

SD213出土土器 (54: 図版17)

54は浅い皿状の体部に外反して開く口縁部が付く高坏である。体部と口縁部の境界には突帯状の段がある。 弥生時代後期末の土器と考えられる。

SD08出土土器(55: 図版17)

55は土師小皿である。体部は回転ナデ、底部は回転糸切り技法を用いている。

P206出土土器(56·57:図版17、写真図版10)

56は口縁端部を僅かに上下に肥厚させ、そこに2条の凹線を巡らせる弥生土器の甕である。

57は須恵器の坏身である。平底でやや扁平な体部を持ち、受部は斜め上方に伸びる。立ち上がりは外反して高く、肥厚した端部は内傾する。

56は弥生時代後期、57は陶邑編年のTK23~TK47型式に併行するものと考えられる。

SK201出土土器 (58・59:図版17、写真図版10)

58・59は形態をほぼ同じくする粗製の小型丸底壺である。全体にユビナデの痕跡がよく残り、球形の 体部に直立する短い頸部が付く。

古墳時代前期の土器と考えられる。

SK203出土土器(61~63:図版18、写真図版11)

甕が3点出土している。61は口縁部を欠くが、倒卵形の体部にほとんど尖底状になった小さな平底を持つ。62は平底で倒卵形の体部に単純に開く口縁が付く。口縁が波打っている。63は尖底気味の底部と倒卵形の体部を持ち、口縁部は単純に外反する。口縁端部は上方に拡張され、外側に面を持つ。

弥生時代後期末の土器と考えられる。

0SK207出土土器(60:図版17、写真図版10)

60は須恵器の坏蓋である。平坦な天井部をもち、立ち上がり部との境界には明瞭な稜がある。口縁端部は内傾する。

陶邑編年のTK23~TK47型式に併行するものと考えられる。

SX01出土土器 (64~78: 図版18·19、写真図版11·12)

64から72は甕である。64は「く」字状に屈曲した頸部から直線的に伸びる口縁部を持つ。口唇部に刻み目を施す。65は単純に外反して開く口縁部を持つ。66は平底で寸詰まりな倒卵形の体部に単純に外反する口縁部を持つ。67はしっかりとした平底に倒卵形の体部を持ち、口縁は単純に外反する。端部を上方に拡張して外側に面を持つ。68は胴の張った体部に鋭く屈曲して直線的に開く口縁部が付く。体部が歪んでいる。69は少し小型の底部に丸みを帯びた胴部で、緩やかに外反する口縁部を持つ。70は小型化した底部と丸みを帯びた体部に鋭く屈曲して開く口縁部が付く。71は突出した平底に扁平な球形の体部を持ち、口縁は単純に外反する。72は突出した平底を持ち、内彎気味に立ちあがる体部からほとんど屈曲することのない頸部を経て内彎気味に開く口縁部を持つ。口唇部には刻み目を施している。

73は平底から内彎気味に立ちあがる体部を持つ。74は小さな平底から内彎気味に立ちあがる体部を持つ鉢である。 75は浅い体部に大きく開く口縁部が付く高坏の坏部である。体部と口縁部の境界には明瞭な稜線があり、その直上に3条一組の櫛描波状文を巡らせる。76は屈曲して開く浅い鉢形の坏部を持ち、短い中実の脚柱部から大きく開く裾部をもつ高坏である。

77はタタキの後ナデを施した直線的に伸びる器台の受部である。78は受部、脚部とも直線的にのびる器台で、全面にタタキを施す。77・78ともいわゆる「粗製の淡路型器台」である。

これらは弥生時代後期末の土器と考えられる。

包含層出土の土器・土製品

包含層出土の土器・土製品は、遺構出土のものと内容的・時期的な違いはない。ただし、遺構からは出土していない律令期の須恵器が極少量ではあるが認められる。以下、弥生土器・土師器と須恵器に分け、器種ごとに概要を述べる。

壺 (79~83: 図版20、写真図版13)

79は二重口縁壺である。内傾気味に立ちあがる頸部から屈曲して開く口縁部を持つ。80は二重口縁壺の頸部であると考えられる。頸部と体部の境界に刻み目を施した断面三角形の貼付突帯を巡らせる。81は外反して開く口縁部を持つ壺である。口縁端部は僅かに拡張して外側に面を持つ。82・83は丸い体部に直立した短い口縁の付く短頸壷である。

甕 (84~93: 図版20·21、写真図版13)

84は平底と倒卵形の体部を持つやや小型の甕である。85は平底と胴の張り出しのない体部を持つ。87 はやや潰れた倒卵形の体部に単純に外反して開く口縁部を持つ。底部はすぼまって小型化している。88 は倒卵形の体部から単純に外反して開く口縁部を持つ。底部は失われているが、体部のすぼまりからみ て小型化傾向を見せ始めている。90は尖底気味の小さな平底を持ち、高さに比して胴の張る体部に外反 する口縁が付く。91・92は単純に外反する口縁部を持つ。口縁端部は外側に面を作る。93は尖底気味の 平底と球胴化した体部を持ち、鋭く屈曲した頸部から口縁部が直線的に伸びる。

鉢 (94·95: 図版21、写真図版13)

94は丸底で内彎気味に立ちあがる体部を持ち、口縁部が僅かに外反して開く鉢である。95は低い脚台から内彎気味に立ちあがる体部と屈曲して開く口縁部を持つ小型の鉢である。

高杯 (96: 図版21、写真図版13)

96は浅い椀形の坏部を持つ高坏である。内外面ともハケを施している。

器台(97:図版21、写真図版13)

97は二重口縁状の受部を持つと考えられる器台である。外面には丁寧なヘラミガキが施されている。 残存状況は悪いものの「精製の淡路型器台」と考えられる。

土錘(98:図版21、写真図版13)

98は土師質の大型土錘である。やや歪んだ円柱状の外観を有し、中央に径1.4cmの円孔が貫通している。

須恵器坏(99~105:図版21、写真図版14)

99~102は須恵器の坏蓋である。99・100の立ち上がりは直立し、天井部との境界に明瞭な隆帯を持つ。 98の隆帯は垂下気味である。口縁端部は内側に明瞭な段を持つ。天井部は丸みを帯び、約3/4にケズリを施す。101は立ち上がりが少し開き気味で、天井部との境界には明瞭な隆帯がある。口縁端部は内側に段を持つ。102は平坦な頂部から丸みを帯びて広がる天井部を持ち、天井部と立ち上がり部の境界には隆帯がある。103~105は須恵器の坏身である。103は平底と長い立ち上がり部を特徴とする。104は水平に伸びる受部を持ち、立ち上がり部は直線的である。口縁端部は内傾し、微かにくぼんでいる。105は丸みを帯びた浅い底部を持ち、受部は水平に伸びる。立ち上がり部は斜めに伸び、端部は僅かに内傾する。

須恵器高坏(106~109:図版21、写真図版14)

106は高坏の蓋である。天井部だけ残存する。107・108は有蓋高坏である。107は明瞭な受部から外 反気味に伸びる立ち上がり部を持ち、口縁端部は内側に面を持つ。低い脚台部は3ヵ所に円形のスカシ 穴をうがち、端部を拡張して外側に面を作る。108は口縁端部が内傾し、僅かにくぼむ。脚部には3方 向から円形のスカシを穿ち、脚端は鋭く屈曲してやや内向きにおさめる。109は無蓋高坏で、坏部の口 縁は軽く外反する。外面に2条の突帯と櫛描波状文を巡らせ、耳の付いていた痕跡が1ヵ所ある。脚部 は失われているが、底部外面に長方形スカシの痕跡が4ヵ所残る。

110は脚部にカキ目を施し、推定3ヵ所の長方形スカシをうがつ。脚端部は鋭く屈曲して垂直に伸び、外側に面を持つ。

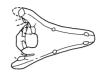
須恵器蓋(111:図版20)

111は平らな天井部をもち、水平に伸びた口縁端部を僅かに垂下させる。律令期のものと考えられる。

須恵器鹿頭部(112:第3図:巻首図版2、写真図版15)

112は須恵質の鹿頭部である。目と鼻はヘラの刺突で表現し、口はヘラ書きである。牡鹿を表現した

もので、枝角を持ち、剥落しているものの耳が付いていた 痕跡がある。角の間には自然釉が掛かる。鼻先から首後ろ まで4.3cm、角も含めた残存高は4.75cmを測る。装飾付須恵 器の小像部分と考えられる。中世遺構面からの出土であり、 包含層出土須恵器の中にも接合するものや装飾付須恵器と 考えられる破片が認められなかった。

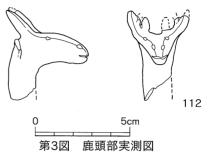


石器 (第4図、写真図版15)

422.7gを測る。SD206から出土した。

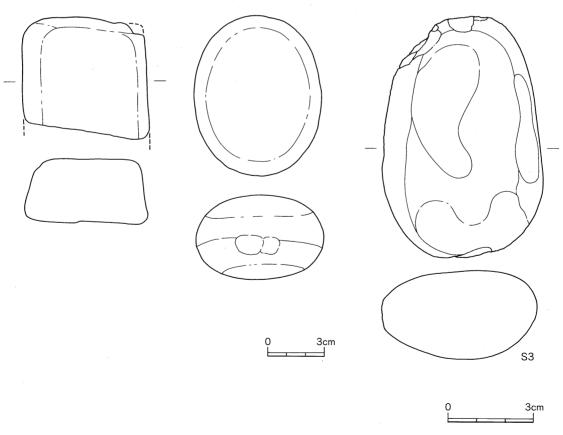
遺構出土のものと包含層出土のものがあるが、点数も少ないためここで一括して記述する。

S1は亜角礫を用いた礫石器である。平坦面が摩滅しており、



磨石あるいは砥石状の用途に用いたのではないかと思われる。上面から側面にかけて赤色の付着物がある。 重量は233.7gを測る。なお、この付着物については化学分析の結果、顔料の可能性は低いことが判明した。 S2は亜円礫を用いた磨石である。一方の端に敲打痕が認められるほか、全体に磨かれている。重量は

S3はSH01の床面からが出土している。大型の扁平な亜円礫を用いた礫石器で、両端が剥離している。 台石と考えられる。重量は2560gを測る。



第4図 石器·石製品実測図

番号	番号	種別	器種	I□終(om)	附谷(am)	底径(cm)		是即山上上台。上表面能念文 器面調整·等	<i>4</i> 1 #⊞	I IIA _L		()は復元化
1		土師器	細頸壺	口(E(Cm)	放性(cm)	此/至(cm)	帝向(cm)	益胆調館・身 体部外面上半はタタキの後ハケ、下半にはヘラケズリ。内面は ユビナデ、ユビオサエの後板ナデ。外面に黒斑。	担 調 10YR8/2		残存率	備考
2	SD201	土師器	直口壺	(15.6)				口縁部ヨコナデ。体部外面は板ナデ、内面はヘラケズリ・板ナデ。	10YR8/2~ 7.5YR7/3	チャート、長石、赤 クサリ礫含む。粒 径0.5~2mm	口縁部1/4 ~体部1/3	
3	SD201	土師器	直口壺	15	27.2		33.6	口縁部ヨコナデ。体部外面はハケ。内面は摩滅のため調整不明。	5YR7/4	長石、石英、チャ ート含む。粒径0.5 ~2mm	完形	
4	SD201	土師器	直口壺	(11.8)	(16.25)		18.2	口緑部ヨコナデ、一部にケズリが残る。体部外面はハケ、内面 はケズリと・ナデ。上半部を中心に粘土紐の継ぎ目が残る。	2.5Y7/2	チャート、長石、 雲母含む。 粒 径 0.5 ~ 8mm	約1/3	
5	SD201	土師器	直口壺	11.6	-17.8			口縁部ヨコナデ、内面にハケ目が残る。体部外面はハケで、一 部にナデ・ケズリを施す。体部内面は板ナデとハケ。	10YR7/2	長石、石英、チャ ート、赤クサリ礫含 む。粒径1~3mm	ぼ完存、体	
6	SD201	土師器	直口壺	12.15	16.8		18.75	口縁部はハケの後ヨコナデ。体部内外面ともハケ(9本/cm)の 後ナデ、下半に粘土紐の痕跡が残る。頸部外面には工具痕が 多数残る。黒斑あり。	10YR7/2	長石、石英、チャ ート含む。粒径1 ~5mm。	ほぼ完形	二次燒成
7	SD201	土師器	小型壺	8.4	7.5			口縁部は強いヨコナデ。体部外面はナデ、内面は指ナデ。	2.5Y7/2、 5YR7/4	長石、石英、赤ク サリ礫含む。粒径 0.5~1.5mm	約3/4	
8	SD201	土師器	小型壺	(6.85)	8.9		7.8	外面はナデ、内面は口縁部は板ナデ?、体部はユビオサエとナデ。体部内外面に粘土紐の痕跡あり。	2.5Y8/2	赤クサリ礫含む。 粒径0.5mm以下。	口縁部1/4、 体部はほぼ 完形	外面にスス 付着。
9	SD201	土師器	小型壺	(10)	9.1		7.85	口縁部ヨコナデ。体部外面はナデで、上半にハケ、下半 にユビオサエが残る。内面はユビオサエ、指ナデ。	2.5Y8.2~ 7/2	長石、チャート、石 英含む。粒径1~ 8mm	口縁部をほ とんど欠くが 他は完存。	
10	SD201	弥生土器	壶					外面にはハケ目が残る。肩部に列天文と波状文を巡らせる。	2.5Y7/3	長石、石英含む。 粒径0.5~2.5mm。	頸部付近1/2	
11	SD201	土師器	甕	(15.4)				口縁部はハケの後ヨコナデ。体部外面はハケ、内面はナデで、 内面には粘土紐の継ぎ目が明瞭に残る。	10YR7/2	チャート、長石、雲 母含む。粒径0.5 ~3mm	口縁部1/8	
12	SD201	土師器	弧	13.3	16.3		16.4	口縁部ヨコナデ。体部外面はハケ、内面はユビオサエ・板ナデ で粘土紐の継ぎ目が残る。	2.5Y8/3	チャート、長石、雲 母、赤クサリ礫含 む。粒径1~3mm	完形	二次焼成
13	SD201	土師器	魙	10.95	14.9		15.4	口縁部ヨコナデ、一部ハケ目が残る。体部外面上半は6本/cm のハケ目、下半は粗いナデとケズリ。内面はユビオサエの後ナ デ、粘土紐の痕跡。	10YR7/2~ 4/2	長石、石英、チャ ート含む。粒径1 ~7mm。	ほぼ完形	二次焼成
14	SD201	土師器	26	13.9	20.5		21.7	口縁部ヨコナデ。体部外面はハケ、内面は不明。外面に黒斑がある。	2.5Y7/2~ 5/2	チャート、石英、雲 母、赤クサリ礫含む。 粒径0.5mm以下	完形	口縁部1/2と 体部全体に 二次焼成
15	SD201	土師器	誕	(13.9)				口縁部ヨコナデ、一部にユビオサエが残る。体部内面は 顕部にユビオサエが残り、それ以下はヘラケズリ。	2.5Y7/2~ 8/2	長石、チャート、雲 母、赤クサリ礫含 む。粒径1.5mm以 下-	口縁部1/3	
16	SD201	土師器	瓢	(13.4)				口縁部ヨコナデ。体部外面は板ナデ?、内面はヘラケズリ。	2.5Y7/2~ 8/2	長石、石英、チャ ート含む。	口縁部7/8 ~体部1/2	口縁部を中心 に二次焼成
17	SD201	土師器	飄	14.95	21.5			口緑部ヨコナデ。体部外面は摩滅により調整不明、内面はナ デでユビオサエと粘土紐の跡が残る。	7.5 Y R 8/3 ~ 5YR7/4,75YR5/2, 10YR6/6	チャート、長石、雲 母含む。粒径1~ 7.5mm	口縁部2/3 ~体部3/4	
18	SD201	土師器	燕	13.7	18.4		19.2	口縁部はハケの後ヨコナデ。体部内外面ともハケ。内面に粘土 紐の痕跡があり、ハケ目は6~8本/cm。底部内面のハケは放 射状に施す。黒斑あり。	10YR7/2~ 5/2	長石、チャート、雲 母含む。粒径0.5 ~6mm。	ほぼ完形	外面にスス 付着。
19	SD201	土師器	#IE	(13.7)				口縁部ヨコナデ。体部外面はハケ、内面はケズリ。	10YR7/2	チャート、長石、石 英、雲母含む。粒 径0.5~1mm	口縁部1/7	
20	SD201	土師器	鉢	(15.4)			(5.5)	口縁部ヨコナデ。体部外面はハケ、内面はハケ・ナデ。	外 2.5Y8/3、内 面2.5Y6/2	長石、チャート、赤 クサリ礫含む。粒 径0.5 ~3mm	約1/6	
21	SD201	土師器	高坏	(21.2)				口縁部はヨコナデ、他は摩滅のため調整不明。	5YR7/6~ 6/8	長石、チャート、雲母、赤クサリ礫含む。粒径1~4mm	坏部1/4	
22	SD201	土師器	高坏	15		(9.75)	12.35	内外面とも剥離・摩滅が著しく調整不明。脚部に3方向から円 孔を穿つ。	5 Y R 7/6、 10YR8/1	石英、長石、チャ ート含む。粒径 3mm以下	約3/5	
23	SD201	土師器	高坏	(17.6)		(11.85)	13	口縁部はヨコナデ、坏部内面はナデ、坏部外面には一部にハケ目が残る。脚部外面はナデ、内面の一部にハケ目が残るほか、 螺旋状に粘土紐を積み上げた痕跡と絞り痕が残る。	10YR8/2~ 6/2	チャート、長石、石 英、雲母含む。粒	口縁部1/3~ 基部完存~ 脚裾部1/3	
24	SD201	土師器	高坏	17.4		13.1	12.4	口縁部ヨコナデ。坏部外面から脚部外面はナデ、脚裾端部はヨコナデ。	10YR8/2~ 8/3	チャート、長石、石 英、雲母含む。粒 径1~4mm。	口縁部7/8 〜坏部から 脚柱部完存、 裾部1/2	二次焼成
25	SD201	土師器	高坏	(16.6)		(12.1)	12.6	口縁部ヨコナデ。坏底部内面はナデ。脚部外面は縦方向のへ ラナデ、内面はヘラケズリ、裾端部はヨコナデ。	10YR8/2	チャート、長石、石 英、雲母、赤クサリ 礫含む。粒径0.5 ~3.5mm	坏底部から	二次焼成
26	SD201	土師器	高坏	(17.2)		(12.05)	13.6	口縁部ョコナデ、坏部内外面にハケ、脚柱部外面の調整は不明、内面には螺旋状に積み上げた粘土紐の痕跡と絞り痕。裾 端部はヨコナデ。	2.5Y7/2	石英、長石、チャート含む。粒径0.5 ~3mm、10mmの ものも極少量ある	口縁部3/4 〜坏底部か ら脚柱部完	二次焼成
27	SD201	土師器	高坏	15.4		(11.25)	12.3	口縁部ヨコナデ。坏部底部外面から脚部外面は縦方向のナデ。 脚部内面には螺旋状に粘土紐を積み上げた痕跡と絞り痕が ある。	10YR8/2、 2.5Y6/4	チャート、長石、石 英、雲母含む。粒 径0.5~3.5mm		
28	SD201	土師器	脚部					かる。 外面にはヘラミガキ、裾部内面には板ナデの痕跡がある。	2.5Y8/1~ 7/2	長石、チャート、石 英含む。粒径1~ 3.5mm	基部のみ	
29	SD201	土師器	たこ壺	(4.7)			8.9	外面には工具痕とも思われるキズが多数残る。内面は指ナデ。	2.5Y7/1	石英、長石、チャ ート含む。粒径0.5 ~2.5mm	約1/3	
30	SD201	弥生土器	広口壺					摩滅のため調整不明。口縁端部に多数の刻み目を施す。	2.5YR5/6	長石、石英含む。 粒径1~5mm	口縁部1/8	
31		須恵器	坏身	10.8	13.0	5.3	5.7	内面から体部外面にかけて回転ナデ、底部外面は回転ヘラケズリ。体部外面にヘラ記号?あり。	外 面 2.5Y7/1、内 面N7/0	粒径3mm以下	口縁部3/4 〜底部ほぼ 完存	-
32		須恵器	高坏蓋	12.8			5.1	坏部内面から外面にかけては回転ナデ、坏底部外面付近は	N6/0~5/0		ほぼ完形	
33	SD203	須恵器	無蓋髙坏	(16.3)				回転ヘラケズリ。不部中位に突帯が2条巡り、その下に櫛描波 状文を巡らせる。 体部外面はタタキの後板ナデ。内面は底部から放射状に板ナ	N6/0~5/0	粒径1.5mm以下 長石、チャート、石	口縁部1/6	
34		弥生土器	栗	(12)	(13.7)	2.7	14.4	デ、粘土紐の痕跡がある。	10YR8/2	英含む。粒径0.5 ~3mm	完存	二次焼成
35		須恵器	坏蓋	12.2			4.65	天井部を回転ヘラケズリ、他は回転ナデ。ケズリとナデが一部で1/4周ほど重なる。 口縁部ヨコナデ、体部外面はタタキ、頸部付近にハケ目が残る。	N6/0~5/0 10YR6/2~	粒径2mm以下 長石、石英含む。	天井部3/4~ 口縁部1/6	内外面にス
36	SD205	土師器	類	25.6			-	は部内面は板ナデ。 体部内面は板ナデ。	4/1	校石、石央百ぴ。 粒径1~2mm チャート、長石、石	3/10	ス付着
37	SD205	弥生土器	薨					口縁部ヨコナデ。体部外面はタタキの後ナデ、内面は板ナデ。	10YR8/2、 5YR7/4	英、赤クサリ礫を含む。粒径1~6mm	1/3	

()は復元他

番号												()は復元他
38	番号 SD205	種 別 弥生土器	器 種	口径(cm) 10.1	腹径(cm)	底径(cm)	器高(cm) 5.2	器面調整・等 内外面とも剥離・摩滅が著しく調整不明。外面に黒斑。	色 調 2.5Y7/1	胎 土 石英、長石、チャ ート含む。粒径0.5	残存率	備考
39	SD205	弥生土器	台付鉢	(7.25)	(8.15)	4	7.3	口縁部ヨコナデ、体部外面はタタキ、内面は不明。脚台部内面はユビナデ、外面はヘラナデ、	2.5Y7/2、 7.5Y8/3	~4mm 長石、石英、チャ ート含む。粒径1	1/2	
40	SD205	弥生土器	鉢			4.15		体部外面はタタキ、底部はユビナデ。体部内面はケズリ。	7.5YR5/1 ~4/1	~4mm 石英、長石、チャ ート含む。粒径1	底部のみ	
41	SD205	弥生土器	高坏	20.9				「 坏部内面には板ナデ、坏底部外面にはハケ。口縁部は波打っている。	10YR7/2 ~5YR6/4	~3mm 長石、石英含む。 粒径1~4mm	坏部1/2	
42	SD205	弥生土器	器台	19.9				受部内面は横+不定方向のヘラミガキ、外面は縦方向のヘラミガキ。口縁部ヨコナデ。段部にヘラ描き波状文2条。脚部は	10YR7/2	石英、長石、赤ク サリ礫含む。粒径	口縁部2/3、 脚端部を欠	淡路型器台A
43	SD206	弥生土器	広口壺	15.7				外面が縦方向のヘラミがキ、内面が板ナデ。 口縁部ヨコナデ。頸部内面は縦方向のナデ、外面は摩滅が著 にく調整不明。体部内面は板ナデ。口縁端部外面に円形浮文、 頸部付け根に断面三角形の貼付突帯を巡らせる。	10YR8/2	ートを含む。粒径1	口縁部から 頸部のみ残	二次焼成
44	SD206	弥生土器	壺		(27)			頸部外面はハケ、体部外面はタタキの智捌け、底部付近にへ	10YR7/2、		丹 頸部1/4、体	
- 11	0000	30-15-161	2012		(2.7)			ラケズリ。体部内面は斜め方向のナデ、粘土の継ぎ目残る。 口縁部はナデ、口唇部に刻み目を施す。体部から口縁部直下	2.5YR6/6 外面	粒径0.5~8mm 長石、石英、チャ	部1/2 口縁部1/2~	
45	SD206	弥生土器	塑	(10.75)	(15)		17.8	まで外面はタタキの後板ナデ。内面は底部付近が板ナデ、体部中位がハケ、頸部付近は指ナデ。	7.5YR7/4、 内面	ートを含む。粒径1 ~5mm 長石、チャートを	腹部1/3~ 底部付近完存	
46	SD206	弥生土器	塑	(16.3)	(17.8)	4.6		体部外面はタタキ、内面はハケ。内面の頸部直下に粘土紐の継ぎ目が明瞭に残る。	10YR7/2 ~5/2	会む。 長石、チャート含む。	口縁部から 胴部1/2 口縁部1/2弱、	外面にスス付着。
47	SD206	弥生土器		(16.5)	(18.85)		(23.3)	口縁部はナデ。全体に摩滅が著しいが体部外面はタタキ、内面は不明。	10YR7/2 ~5/2	粒径0.5~2.5mm	体部1/4、底 部完存。	淡路型器台A
48	SD206	弥生土器	鉢	(12.05)		4.7	6.5	内外面とも摩滅のため調整不明。内外面底部付近には板ナデ? の痕跡がある。	10YR8/2	長石、石英、チャ ートを含む。粒径1 ~3.5mm	口縁部3/4 〜底部完存	
49	SD206	弥生土器	器台	(20.6)		4		全体に摩滅しており、調整は不明。脚部外面にヘラミガキの痕跡がある。脚部には現状で2ヵ所の円孔がある(推定3ヵ所)。	10YR7/3	長石、石英、チャ ートを含む。粒径1 ~5mm	存。	
50	SD206	韓式土器	壶	16.2				口縁部ヨコナデ、体部外面には格子タタキを施す。内面は摩 滅のため調整不明。	10YR8/4	長石、チャート、赤クサリ礫 含む。粒径0.5~3.5mm	口縁部から肩 部のみ残存	
51	SD209	須恵器	坏身	(10.3)	(12.4)		(4.8)	が部内面から受部直下までは回転ナデ、底部外面は回転へ ラケズリ。	N6/0	粒径1mm以下	口縁部1/3	
52	SD209	須恵器	はそう					回転ナデ、屈曲部の上下に櫛描波状文も巡らせる。		粒径1.5mm以下	〜体部2/5 頸部付近 1/2	
53	SD211	土師器	鉢	(26)				付着物のため、外面調整不明。口縁部内面は横方向のヘラミ ガキ、体部内面はナデ。	(自然釉) 外面 10YR5/2、	長石、チャート、石 英、雲母含む。粒		
54	SD213	土師器	高坏	(17.3)				内外面とも摩滅が著しく調整不明。	内面 2.5Y8/1	径0.5~4mm 石英、長石、チャート含	口縁部1/6	
	anaa	1 6r nn		(= 0)		(a)	_		外面	<u>む。粒径0.5~2.5mm</u> 長石、チャート、雲		
55	SD08	土師器	小皿	(7.3)		(6)	1	体部は回転ナデ、底部は回転糸切り。	10YR7/2、 内面	母を含む。粒径 0.5~2mm	1/4	
56	P204	弥生土器	悪	(19)				口縁部ヨコナデ。口縁端部を上下に肥厚させ、底に凹線を2 条ほど超す。体部内面はヘラケズリ。	10YR8/2、 5YR7/6	雲母、長石、石英を含 む。粒径0.5~4mm	口縁部1/10	
57	P206	須恵器	坏身	(10.75)	(12.9)	(5.1)	(5)	内面から体部外面にかけて回転ナデ、底部外面は回転へ ラケズリ。	N 7 / 0 ~ 6/0	粒径2mm以下	口線部1/6 ~体部4/3 ~底部	
58	SK201	土師器	小型丸底土器	5.15	6.5		5	口縁部はナデ、全体に手づくね成形。	外 2.5Y7/2、	チャート、長石含む。	ほぼ完形	
									内面N3/0	粒径1~5mm		
59	SK201	土師器	小型丸底土器	(4.7)	5.8		5.2	外面はユビオサエ、内面はユビナデ。	内面N3/0 2.5Y7/1、	長石、チャート、石 英含む。粒径0.5	口縁部1/4、 体部はほぼ	
59		土師器須恵器	小型丸底土器 坏蓋	(4.7) 12.3	5.8		5.2	外面はユビオサエ、内面はユビナデ。 天井部は回転へラケズリ、他は回転ナデ。	内面N3/0	長石、チャート、石 英含む。粒径0.5 ~2.5mm	口縁部1/4、 体部はほぼ 完形	二次焼成
	SK207				19.3	5.4			内面N3/0 2.5Y7/1、 4/1	長石、チャート、石 英含む。粒径0.5 ~2.5mm	口縁部1/4、 体部はほぼ	二次焼成
60	SK207 SK203	須恵器	坏蓋	12.3		5.4	4.5	天井部は回転ヘラケズリ、他は回転ナデ。 口縁部ヨコナデ。体部外面はタタキの後ヘラナデ。内面は剥離 のため調整不明。	内面N3/0 2.5 Y7/1、 4/1 N7/0~5/0 10 YR8/3	長石、チャート、石 英含む。粒径0.5 ~2.5mm 粒径1~4.5mm チャート、長石、雲 母含む。 粒径3mm以下 石英、長石、チャ	口縁部1/4、 体部はほぼ 完形 2/3	二次焼成 外面にスス、 内面に炭化 物付着。
60	SK207 SK203 SK203	須 恵 器弥生土器	<u>坏蓋</u>	12.3	19.3	5.4	4.5 25.1		内面N3/0 2.5 Y 7/1、 4/1 N7/0~5/0 10 Y R 8/3]~5/2	長石、チャート、石 英含む。粒径0.5 ~2.5mm チャート、長石、雲 街舎む。 粒径3mm以下 石英、長石、チャート、黒雲母合む。 粒径1~2.5mm チャート、長石、石 英・長石、石、石、石、石、石、石、石、石、石、石、石、石、石、石、石、石、石、石、	口縁部1/4、 体部はほぼ 完形 2/3 4/5	外面にスス、 内面に炭化
60 61 62	SK207 SK203 SK203 SK203	須 恵 器 弥生土器 弥生土器	坏蓋 亞 	12.3	19.3		4.5 25.1	天井部は回転ヘラケズリ、他は回転ナデ。 口終部ココナデ。体部外面はタタキの後ヘラナデ。内面は刺離 のため調整不明。 口終部ココナデ。体部外面は上半がタタキ、下半がタタキの後 板ナデ。頻部付近にハケ目が残る。内面は板ナデ。	内面N3/0 2.5 Y 7 / 1、 4 / 1 N7/0~5/0 10 Y R 8 / 3]~5/2 10 Y R 8 / 2 ~6/2	長石、チャート、石 英含む。粒径0.5~2.5mm 粒径1~4.5mm サヤート、長石、霧 粒径3mm以下 石英、長2番のは 粒径1~2.5mm チャート、長程令む。 粒径1~2.5mm チャート、長径1~ 3.5mm 赤クサリ栗、丸を径	口縁部1/4、 体部はほぼ 完形 2/3 4/5 1/2 体部2/3	外面にスス、 内面に炭化 物付着。 外面にスス、 内面に炭化
60 61 62 63	SK207 SK203 SK203 SK203 SK203	須 恵 器 弥生土器 弥生土器 弥生土器	坏蓋 頭 類 類	12.3 14.9 (15)	19.3		4.5 25.1	天井部は回転ヘラケズリ、他は回転ナデ。 □総部ココナデ、体部外面はタタキの後ヘラナデ。内面は剥離のため調整不明。 □機部ココナデ。体部外面は上半がタタキ、下半がタタキの後板ナデ。頭部付近にハケ目が残る。内面は板ナデ。 体部外面はタタキの後板ナデ。内面はナデ。外面に黒斑。 □総部はナデ、口唇部に刻み目を施す。。体部外面はタタキ、内面は摩滅のため調整不明。 □総部ココナデ。体部外面はタタキ、内面は板ナデ。	内面N3/0 2.5Y7/1、 4/1 N7/0~5/0 10YR8/3]~5/2 10YR8/2 ~6/2 10YR8/2、 5/2 10YR7/3~ 7.5YR6/4 10YR7/2	長石、チャート、石 英含む・粒径0.5 ~2.5mm 粒径1~4.5mm 粒径1~4.5mm 大手十一、長石、雲 砂密3mm以下 石英、長石、チャート、黒雲母含む。 粒径26mm以下 石英、長石、チャート、長石、石 ・大手へ、長石、石 ・大手へ、長石、石 ・大手へ、長石、石 ・大手へ、長石、石 ・大手へ、長石、石 ・大手へ、大手へ、大手で、大手で、大手で、大手で、大手で、大手で、大手で、大手で、大手で、大手で	口縁部1/4、 体部はほぼ 完形 2/3 4/5 1/2 体部2/3	外面にスス、 内面に炭化 物付着。 外面にスス、 内面に炭化
60 61 62 63	SK207 SK203 SK203 SK203 SK203 SX01	須 恵 器 弥生土器 弥生土器 弥生土器	坏蓋 强 型 型	12.3 14.9 (15)	19.3		4.5 25.1	天井部は回転ヘラケズリ、他は回転ナデ。 □総部ココナデ、体部外面はタタキの後ヘラナデ。内面は剥離のため調整不明。 □縁部ヨコナデ、体部外面は上半がタタキ、下半がタタキの後板ナデ。頭部付近にハケ目が残る。内面は板ナデ。 体部外面はタタキの後板ナデ。外面に黒斑。 □線部はナデ、口唇部に刻み目を施す。。体部外面はタタキ、内面は岸流のため調整不明。	内面N3/0 2.5Y7/1、 4/1 N7/0~5/0 10YR8/3]~5/2 10YR8/2 ~6/2 10YR8/2、 5/2 10YR7/3~ 7.5YR6/4	長石、チャート、石 英含む・粒径0.5 ~2.5mm 数径1~4.5mm 数径1~4.5mm 数件1~4.5mm 数件1~4.5mm 数件1~2.5mm 石英、長石、チャート、無窓母合む。 粒径3mm以下 イン、長在(1~5、表 を注入した。 表のクサリ際、石英 長石含む。 を発行される。 を発行を発行される。 を発行を発行される。 を発行を発行される。 を発行される。 を発行を発行を発行を発行を発行する。 を発行を発行を発行を発行を発行を発行を発行を発行を発行を発行を発行を発行を発行を	口縁部1/4、体部はほぼ完形 2/3 4/5 1/2 体部2/3	外面にスス、 内面に炭化 物付着。 外面にスス、 内面に炭化
60 61 62 63 64 65	SK207 SK203 SK203 SK203 SX01 SX01	須 恵 器 弥生土器 弥生土器 弥生土器 弥生土器	坏蓋 遊 避 避 逆	12.3 14.9 (15) (15.5) (14.2)	19.3 (19.6) (20.9)	1.6	4.5 25.1 (21.1)	天井部は回転ヘラケズリ、他は回転ナデ。 □総部ココナデ、体部外面はタタキの後ヘラナデ。内面は剥離のため調整不明。 □機部ヨコナデ、体部外面は上半がタタキ、下半がタタキの後板ナデ。頭部付近にハケ目が残る。内面は板ナデ。 体部外面はタタキの後板ナデ。外面に黒斑。 □総部はナデ、口唇部に刻み目を施す。。体部外面はタタキ、内面は尾端のため調整不明。 □総部ココナデ。体部外面はタタキ、内面は板ナデ。 原部附近はコンナデで、一部ハケが残る。体部外面はタタキで、底部附近はウズリ。内面はケズリの後板ナデ、頸部下に粘土	内面N3/0 2.5Y7/1、 4/1 N7/0~5/0 10YR8/3]~5/2 10YR8/2 ~6/2 10YR8/2, 5/2 10YR7/3~ 7.5YR6/4 10YR7/2 外面7.5YR7/3、	長石、チャート、石 英含む。粒径0.5~2.5mm 粒径1~4.5mm ガキート、長石、選 粒径3mm以下 石英、長窓母のは、 粒径3mm以下 石英、長の日本で、 数径1~2.5mm チャート、長石、チャート、長石(日本)、 数径1~2.5mm チャート、長石(日本)、 数径1~2.5mm ルート、数では、 の、を の、を の、を の、を の、を の、を の、を の、を の、を の、	口縁部1/4、 体部はほぼ 完形 2/3 4/5 1/2 体部2/3 口縁部1/4 口縁部1/4 ほぼ完形	外面にスス、 内面に炭化 物付着。 外面にスス、 内面に炭化
60 61 62 63 64 65 66	SK207 SK203 SK203 SK203 SX01 SX01 SX01	須 恵 器 弥生土器 弥生土器 弥生土器 弥生土器 弥生土器	坏濫 塑 塑 型 型	12.3 14.9 (15) (15.5) (14.2) 12.3	19.3 (19.6) (20.9)	3.85	4.5 25.1 (21.1)	天井部は回転ヘラケズリ、他は回転ナデ。 □縁部ココナデ。体部外面はタタキの後ヘラナデ。内面は刺離のため調整不明。 □縁部ヨコナデ。体部外面は上半がタタキ、下半がタタキの後板ナデ。頭部付近にハケ目が残る。内面は板ナデ。 体部外面はタタキの後板ナデ。外面に土産、外面に黒斑。 □縁部はナデ、口唇部に刻み目を施す。。体部外面はタタキ、内面は摩滅のため調整不明。 □縁部ココナデ。体部外面はタタキ、内面は板ナデ。 □縁部ココナデ。体部外面はタタキ、内面はなケズリ。内面はウズリ。内面はケズリの後板ナデ、頭部下に粘土組の痕跡がある。底部は軸台技法。	内面N3/0 2.5Y7/1、 4/1 N7/0~5/0 10YR8/3]~5/2 10YR8/2、 5/2 10YR8/2、 5/2 10YR7/3~ 7.5YR6/4 10YR7/2 外面 10YR7/3 内面	長石、チャート、石 英含む・粒径0.5 ~2.5mm 粒盤1~4.5mm サキート、長石、雲 粒径39mm以下 一人、黒雲母含む。 粒径1~2.5mm チャート、東電子を を指し、2.5mm チャート、粒径1~2.5mm 長石、石 3.5mm 素クサ含む。 粒径0.5~7mm 長石、石 変と2.5mm 素クす合む。 粒径0.5~7mm 長石、石 大半の5mm 長石、石 大半の5mm 大十の5mm 大十の5mm 大十の5mm 大十の5mm 大十の5	口縁部1/4、 体部はほぼ 完形 2/3 4/5 1/2 体部2/3 口縁部1/4 口縁部1/4 ほぼ完形	外面にスス、内内衛行着。 外面に炭化 外面に炭化 外面に炭化 物付着。 底部外面に
60 61 62 63 64 65 66	SK207 SK203 SK203 SK203 SX01 SX01 SX01 SX01	須 恵 器 弥生土器 弥生土器 弥生土器 弥生土器 弥生土器 弥生土器 弥生土器	坏濫 期 期 期 到 到 到 到 到 到 到 到 到 到	12.3 14.9 (15) (15.5) (14.2) 12.3	19.3 (19.6) (20.9)	3.85	4.5 25.1 (21.1) 12.8 16.8	天井部は回転ヘラケズリ、他は回転ナデ。 □終部ョコナデ(体部外面はタキの後ヘラナデ。内面は刺離のため調整不明。 □終部ョコナデ。体部外面は上半がタタキ、下半がタタキの後板ナデ。類部付近にハケ目が残る。内面は板ナデ。外面に黒斑。 体部外面はタタキの後板ナデ。内面はナデ。外面に黒斑。 □総部はナデ、口唇部に刻み目を施す。。体部外面はタタキ、内面は磨減のため調整不明。 □総部はコナデ、(口唇部に刻み目を施す。。体部外面はタタキ、内面は磨減のため調整不明。 □総部はヨコナデ。体部外面はタタキ、内面は板ナデ。 国総部はヨコナデの、一部ハケが残る。体部外面はタタキで、底部附近はケズリ。内面はケズリの後板ナデ、頸部下に粘土 総の痕跡がある。底部は軸合技法。 □縁部はタタキの後ヨコナデ。体部外面はタタキ、内面はナデ。 □縁部はコナデ。体部外面はタタキで体部中央にナデ。内面	内面N3/0 2.5Y7/1、 4/1 N7/0~5/0 10YR8/3]~5/2 10YR8/2、 5/2 10YR7/3~ 7.5YR6/4 10YR7/2 外面7.5YR7/3、 内面0YR7/2 ~6/2	長石、チャート、石 英含む。粒径0.5 ~2.5mm 並俗1~4.5mm ササート、長石、男 サヤート、長石、チャート、後部 を経済の加以下 大工、大工、大工、大工、大工、大工、大工、大工、大工、大工、大工、大工、大工、大	口縁部1/4、 体部はほぼ 完形 2/3 4/5 1/2 体部2/3 1/2 体部2/3 口縁部1/4 ほぼ完形 2/3 口縁部1/4 に必藤部1/4 に必藤部1/3 ~ 底藤部1/3 ~ 底藤部1/1 で のいまが 1/3 で 1/3 で 1/3 に 1/3	外面にスヌ化 内面に着。 外内面に着。 外内物付着。 底ス 水付 面高。 底ス 水付 所着。 にスス 不着 面着。
60 61 62 63 64 65 66 67	SK207 SK203 SK203 SK203 SK203 SK203 SX01 SX01 SX01	須 惠 器	坏蓋 塑 塑 塑 塑 塑 塑 塑 塑 塑 塑 塑 塑 塑 塑 塑 塑 塑 塑 塑	12.3 14.9 (15) (15.5) (14.2) 12.3 11.5	19.3 (19.6) (20.9) 12.2 14.1 20.7	3.85 4.1 4.5	4.5 25.1 (21.1) 12.8 16.8 24.1	天井部は回転ヘラケズリ、他は回転ナデ。 □総部ココナデ。体部外面はタタキの後ヘラナデ。内面は刺離のため調整不明。 □総部ヨコナデ。体部外面は上半がタタキ、下半がタタキの後板ナデ。頭部付近にハケ目が残る。内面は板ナデ。 体部外面はタタキの後板ナデ。内面はナデ。外面に黒斑。 □総部はナデ、口唇部に刻み目を施す。。体部外面はタタキ、内面は磨減のため調整不明。 □総部ココナデ。体部外面はタタキ、内面は板ナデ。 □総部ココナデ。体部外面はタタキ、内面は板ナデ。 □総部はヨコナデ。体部外面はタタキで、底部附近はケズリ。内面はケズリの後板ナデ、頭部下に粘土組の痕跡がある。底部は輪台技法。 □総部ココナデ。体部外面はタタキで体部中央にナデ。内面は板ナデ。	内面N3/0 2.5Y7/1、 4/1 N7/0~5/0 10YR8/3]~5/2 10YR8/2 5/2 10YR7/3~ 7.5YR6/4 10YR7/2 外面 10YR7/2 个6/2 10YR7/2 10YR7/2	長有、チャート、62 (1.5 を 1.5	□縁部1/4、 体部はほぼ 完形 2/3 4/5 1/2 体部2/3 ロ縁部1/4 ロ縁部1/4 に完形 2/3 ロー胸部2/3 マーロ縁部1/4 この順部等元 で一段部が1/3 マーロ縁部1/4 に対験部1/3 マーロ縁部1/4 アール解部2/3	外面にスヌ化 内面に着。 外内面に着。 外内物付着。 底ス 水付 面高。 底ス 水付 所着。 にスス 不着 面着。
60 61 62 63 64 65 66 67 68	SK207 SK203 SK203 SK203 SK203 SK203 SK201 SX01 SX01 SX01 SX01 SX01	須惠 器 器	坏濫 班 班 班 班 班 班 班 班 班 班 班 班 班 班 班 班 班 班 班	12.3 14.9 (15) (15.5) (14.2) 12.3 11.5 (15.7)	19.3 (19.6) (20.9) 12.2 14.1 20.7	3.85 4.1 4.5 3.9	4.5 25.1 (21.1) 12.8 16.8 24.1 24.5	天井部は回転ヘラケズリ、他は回転ナデ。 □縁部ココナデ。体部外面はタタキの後ヘラナデ。内面は剥離のため調整不明。 □縁部ヨコナデ。体部外面は上半がタタキ、下半がタタキの後板ナデ。頭部付近にハケ目が残る。内面は板ナデ。 体部外面はタタキの後板ナデ。外面に黒斑。 □縁部はナデ、口唇部に刻み目を施す。。体部外面はタタキ、下面に壊滅のため調整不明。 □縁部はココナデ。体部外面はタタキ、内面は板ナデ。 □縁部はココナデ。体部外面はタタキ、内面は板ナデ、頭部下に粘土 組の痕跡がある。底部は輪台技法。 □縁部ココナデ。体部外面はタタキで体部中央にナデ。内面は板ナデ・プ。 □縁部ココナデ。体部外面はタタキで体部中央にナデ。内面は板ケデ・ナデ。 □縁部ココナデ。体部外面はタタキで一部にナデ。体部内面は板ケナデ・ないのでは板ケナデ。 □縁部ココナデ。体部外面はタタキで後一部に粗いナデ。体部内面は板ケナデ・ナデ。	内面N3/0 2.5Y7/1、 4/1 N7/0~5/0 10YR8/3]~5/2 10YR8/2、 5/2 10YR7/3~ 7.5YR6/4 10YR7/2 外面 10YR7/2 10YR7/2 7.5YR7/3 7.5YR7/3 7.5YR7/3 7.5YR7/4 4 Mailoyr7/2 7.5YR7/4 7.5YR7/4	長石、チャートの 2.5 mm 2.5 m	□縁部1/4、 体部はほぼ 完形 2/3 4/5 1/2 体部2/3 1/2 体部2/3 □縁部1/4 ほぼ完形 2/3 □局部第4/5 ~ □縁部1/4 ○□縁部1/3 ~ □縁部1/3 ~ □縁部1/3 ~ □縁部1/3 ~ □縁部1/3 ~ ○□縁部1/3 ~ ○□縁 ~ ○□縁 ~ ○□縁 ~ ○□緣 ~ ○□ ~ ○□緣 ~ ○□ ~ ○□緣 ~ ○□ ~ ○□ ~ ○□ ~ ○□ ~ ○□ ~ ○□ ~ ○□ ~ ○□	外内物付 外内的付 外内的付 外付
60 61 62 63 64 65 66 67 68 69	SK207 SK203 SK203 SK203 SK203 SK203 SK203 SK201 SX01	須惠 器 器 %生土器 %生土器 %生土器 %生土器 %生土器 %生土器 %生土器	坏濫期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期利期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期知知知知知知知知知知知知知知知知知知知知知知知知知知知知知知知知知知知知知知知知知知知知知知知知知知知知知知知知知知知知知知知知知知知知知知知	12.3 14.9 (15) (15.5) (14.2) 12.3 11.5 (15.7) (15.4)	19.3 (19.6) (20.9) 12.2 14.1 20.7 (22) 22.2	3.85 4.1 4.5 3.9	4.5 25.1 (21.1) 12.8 16.8 24.1 24.5		内面N3/0 2.5Y7/1、 4/1 N7/0~5/0 10YR8/3]~5/2 10YR8/2、 5/2 10YR7/3~ 7.5YR6/4 10YR7/2 外面 10YR7/2 10YR7/2 10YR7/2 10YR7/2 2~6/2 10YR7/3 7.5YR6/6, p 6/2 10YR7/3	長石、チャートでは、	口縁部1/4、 体部はほぼ 2/3 4/5 1/2 体部2/3 1/2 体部2/3 口縁部1/4 ほぼ完形 2/3 口縁部31/4 に一一の に に に に に に に に に に に に に に に に に	外内物付 高にス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス
60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70	SK207 SK203 SK203 SK203 SK203 SK203 SX01 SX01 SX01 SX01 SX01 SX01 SX01 SX01	須惠 器 器 游生土器 游生土器 游生土器 弥生土器 弥生土器 弥生土器 弥生土器 弥生土器 弥生土器 弥生土器 弥	坏羞 熟 题 题 题 题 题 题 题 题 题 题 题 题 题 题 题 题 题 题	12.3 14.9 (15) (15.5) (14.2) 12.3 11.5 (15.7) (15.4) (14.9)	19.3 (19.6) (20.9) 12.2 14.1 20.7 (22) 22.2	3.85 4.1 4.5 3.9 4.2	4.5 25.1 (21.1) 12.8 16.8 24.1 24.5 22.15	天井部は回転ヘラケズリ、他は回転ナデ。 □終部ココナデ。体部外面はタタキの後ヘラナデ。内面は刺離のため調整不明。 □総部ココナデ。体部外面は上半がタタキ、下半がタタキの後板ナデ。頭部付近にハケ目が残る。内面は板ナデ。外面に黒斑。 体部外面はタタキの後板ナデ。内面はナデ。外面に黒斑。 □総部はナデ、口唇部に刻み目を施す。。体部外面はタタキ、内面は接力デの、体部外面はタタキで、底部附近はケズリ。内面はセプデ。 □総部はヨコナデ。体部外面はタタキ、内面は板ナデ。 □総部はココナデ。体部外面はクスリの後板ナデ、頭部下に粘土	内面N3/0 2.5Y7/1、 4/1 N7/0~5/0 10YR8/3]~5/2 10YR8/2、 5/2 10YR7/3~ 7.5YR6/4 10YR7/2 外面 7.5YR7/3、 Poil 10YR7/2 10YR7/2 10YR7/2 2.5YR6/6, 内面 2.5YR6/6, 内面 2.5YR6/6, 内面 9.5YR7/2 2.5YR6/6, 内面 7.5YR7/2 2.5YR6/6, 内面 7.5YR7/2 2.5YR6/7/2 2.5YR6/7/2	長	□緑部1/4、 体部はほぼ 2/3 4/5 1/2 体部2/3 1/2 体部2/3 □緑緑部1/4 □緑緑部1/4 □はぼ完形 2/3 □~底線部1/4 □~底線部1/4 □~底線部1/4 □~底線部1/2 ○底線部1/2 ○に展開部1/2 ○に展開部1/2 ○底線部2/3 に回いた。 に回いた。 に可いた。 に可いた。 に記述を に記述を に記述を に記述を に記述を に記述を に記述を に記述を	外内物
60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71	SK207 SK203 SK203 SK203 SK203 SK203 SK01 SX01 SX01 SX01 SX01 SX01 SX01 SX01 SX	須惠 器 器 務生土器 務生土器 務生土器 務生土器 務生土器 務生土器 務生土器	坏濫期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期期<td>12.3 14.9 (15) (15.5) (14.2) 12.3 11.5 (15.7) (15.4) (14.9) 20.2</td><td>19.3 (19.6) (20.9) 12.2 14.1 20.7 (22) 22.2</td><td>3.85 4.1 4.5 3.9 4.2 4.7</td><td>4.5 25.1 (21.1) 12.8 16.8 24.1 24.5 22.15 19.3</td><td></td><td>内面N3/0 2.5Y7/1、 4/1 N7/0~5/0 10YR8/3]~5/2 10YR8/2、 5/2 10YR7/3~ 7.5YR6/4 10YR7/2 外面 7.5YR7/3、 内面 10YR7/2 10YR7/2 7.5YR7/4 7.5YR6/6, 内面 2.5YR6/6, 内面 2.5YR6/6, 内面 2.5YR7/3, 内面 5.5YR7/4, 内面 5.5YR7/4, 大面</td><td>長</td><td>口縁部1/4、 体部と2/3 4/5 1/2 4/5 1/2 体部2/3 1/2 体部2/3 口縁部1/4 日縁部1/4 ほぼ完形 2/3 〇二線部部1/4 〇二線部部1/2 ○直線師部方存。 ○直線師部方存。 ○直線師部方存。 ○直線師部方容。 ○直線師部方存。 ○直線師部方存。 ○直線師部方存。 ○直線師部方存。 ○音形 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本</td><td>外内物付 高にス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス</td>	12.3 14.9 (15) (15.5) (14.2) 12.3 11.5 (15.7) (15.4) (14.9) 20.2	19.3 (19.6) (20.9) 12.2 14.1 20.7 (22) 22.2	3.85 4.1 4.5 3.9 4.2 4.7	4.5 25.1 (21.1) 12.8 16.8 24.1 24.5 22.15 19.3		内面N3/0 2.5Y7/1、 4/1 N7/0~5/0 10YR8/3]~5/2 10YR8/2、 5/2 10YR7/3~ 7.5YR6/4 10YR7/2 外面 7.5YR7/3、 内面 10YR7/2 10YR7/2 7.5YR7/4 7.5YR6/6, 内面 2.5YR6/6, 内面 2.5YR6/6, 内面 2.5YR7/3, 内面 5.5YR7/4, 内面 5.5YR7/4, 大面	長	口縁部1/4、 体部と2/3 4/5 1/2 4/5 1/2 体部2/3 1/2 体部2/3 口縁部1/4 日縁部1/4 ほぼ完形 2/3 〇二線部部1/4 〇二線部部1/2 ○直線師部方存。 ○直線師部方存。 ○直線師部方存。 ○直線師部方容。 ○直線師部方存。 ○直線師部方存。 ○直線師部方存。 ○直線師部方存。 ○音形 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本	外内物付 高にス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス
60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72	SK207 SK203 SK203 SK203 SK203 SX01	須惠 器 器 務生土器 務生土器 務生土器 務生土器 第生土器 第生土器 第生土器 第生土器 第生土器 第生土器 第生土器 第	坏濫 選 選 選 選 要 要 要 要 要 要 要 要 要 要 要 要 要 要 p	12.3 14.9 (15) (15.5) (14.2) 12.3 11.5 (15.7) (15.4) (14.9) 20.2 18.5	19.3 (19.6) (20.9) 12.2 14.1 20.7 (22) 22.2	1.6 3.85 4.1 4.5 3.9 4.2 4.7 4	4.5 25.1 (21.1) 12.8 16.8 24.1 24.5 22.15 19.3 15.9 8.3	天井部は回転ヘラケズリ、他は回転ナデ。 □終部ココナデ。体部外面はタキの後へラナデ。内面は刺離のため調整不明。 □総部ココナデ。体部外面は上半がタタキ、下半がタタキの後板ナデ。頭部付近にハケ目が残る。内面は板ナデ。 体部外面はタタキの後板ナデ。内面はナデ。外面に黒斑。 □総部はオデ、口唇部に刻み目を施す。。体部外面はタタキ、内面はが変え。内面は膨端のため調整不明。 □総部はココナデ。体部外面はタタキ、内面は板ナデ。 □総部はココナデ。体部外面はタタキ、内面は板ナデ。 □総部はココナデ。体部外面はタタキ、内面は板ナデ。 □総部はココナデ。体部外面はタタキ、内面は板ナデ。 □総部はココナデ。体部外面はタタキで、施部所近はケズリ。内面はナズリ。の後板ナデ、現部下に粘土 組の痕跡がある。底部は軸合技法。 □総部ココナデ。体部外面はタタキで体部中央にナデ。内面はガデ・ナデ。 □総部ココナデ。体部外面はタタキで一部にナデ。内面はオデ・ナデ。体部外面はタタキで一部に上現底が残る。外面に異斑。 □総部コナデ。体部外面はタタキ、内面はナデ。内面はオデ・ナデ。内面はオーデ、体部外面はタタキ、の後一部に異斑。 □総部コナデ。体部外面はタタキ、内面はオーデ。内面はオーデ、内面はオーデ、内面はオーデ、内面はオーデ、内面はオーデ、内面はオーデ、内面はオーデ、内面はオーディ、内面はオーデ、内面はオーディ、内面はオーディ、内面はオーディ、内面はオーディ、内面はオーディ、内面はオーディ、内面はオーディ、内面はオーディ、内面はオーディ、内面はオーディ、内面はオーディ、内面は大き、内面はオーディ、内面は大き、内面はオーディ、内面は大き、内面は大き、内面はオーディ、内面は大き、内面は大き、大き、内面は大き、大き、大き、大き、大き、大き、大き、大き、大き、大き、大き、大き、大き、大	内面N3/0 2.5Y7/1、 4/1 N7/0~5/0 10YR8/3]~5/2 10YR8/2、 5/2 10YR7/3~ 7.5YR6/4 10YR7/2 外面 10YR7/2 10YR7/2 10YR7/2 10YR7/2 10YR7/2 10YR7/2 10YR7/2 10YR7/2 10YR7/2 10YR7/3 7.5YR6/6, pm 10YR7/2 10YR7/3 7.5YR7/4	長元 $+$ $+$ $+$ $+$ $+$ $+$ $+$ $+$ $+$ $+$	口縁部1/4、 体部はほぼ 2/3 4/5 1/2 体部2/3 1/2 体部2/3 口縁部1/4 ほぼ完形 2/3 口縁部31/4 に一つに 経帯31/4 に一つに に に に に に に に に に に に に に に に に に	外内物 外内物 外内物 外内物 外内物 外内物 所面 高 スス スス スス スススス ススススス 新僧 面 高 面 代 から
60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73	SK207 SK203 SK203 SK203 SK203 SK203 SX01 SX01 SX01 SX01 SX01 SX01 SX01 SX01	須惠 器 器 % 生土器 %	坏濫期期期期期期期期期期期期	12.3 14.9 (15) (15.5) (14.2) 12.3 11.5 (15.7) (15.4) (14.9) 20.2 18.5 17.9 18.3	19.3 (19.6) (20.9) 12.2 14.1 20.7 (22) 22.2	1.6 3.85 4.1 4.5 3.9 4.2 4.7 4	4.5 25.1 (21.1) 12.8 16.8 24.1 24.5 22.15 19.3 15.9 8.3		内面N3/0 2.5Y7/1、 4/1 N7/0~5/0 10YR8/3]~5/2 10YR8/2、 5/2 10YR7/3~ 7.5YR6/4 10YR7/2 外面 10YR7/2 10YR7/2 10YR7/2 10YR7/2 10YR7/3 7.5YR7/4 7.5YR6/6, 内面 10YR7/3 7.5YR7/4 9.5YR7/3, 内面 10YR7/2	長東	口縁部1/4、 体部と2/3 4/5 1/2 体部2/3 4/5 1/2 体部2/3 4/5 1/2 体部2/3 口縁部1/4 口縁部1/4 ほぼ完形 2/3 口縁腳部完存。 ○ 直縁腳部第1/3 ○ 直縁腳部2/3 ○ 直縁腳部2/3 ○ 直縁腳部2/3 下	外内物 外内物 外内物 外内物 外内物 外内物 所面 高 スス スス スス スススス ススススス 新僧 面 高 面 代 から
60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74	SK207 SK203 SK203 SK203 SK203 SK203 SK201 SX01	須惠 器 器 務生土器 務生土器 務生土器 務生土器 務生土器 務生土器 務生土器	「	12.3 14.9 (15.5) (15.5) (14.2) 12.3 11.5 (15.7) (15.4) (14.9) 20.2 18.5 17.9 18.3 (15.7)	19.3 (19.6) (20.9) 12.2 14.1 20.7 (22) 22.2	3.85 4.1 4.5 3.9 4.2 4.7 4 4.7	4.5 25.1 (21.1) 12.8 16.8 24.1 24.5 22.15 19.3 15.9 8.3		内面N3/0 2.5Y7/1、 4/1 N7/0~5/0 10YR8/3]~5/2 10YR8/2、 5/2 10YR7/3~ 7.5YR6/4 10YR7/2 外面 10YR7/2 10YR7/2 10YR7/3 7.5YR7/4 N面10YR7/2 7.5YR7/4 N面10YR7/2 7.5YR7/4 N面10YR7/2 7.5YR7/4 N面10YR7/2 7.5YR7/4 N面25YR6/6 PD 10YR7/2 PD 10YR7/4 PD 10YR7/4 PD 10YR7/4 PD 10YR7/4 PD 10YR7/4	長英 $^{-}$ $^{$	□縁部1/4、 体能と2/3 4/5 1/2 体部2/3 1/2 体部2/3 1/2 体部2/3 1/2 体部2/3 1/2 はぼ完形 2/3 □ 縁部1/4 ほぼ完形 2/3 □ 未動師部部1/4 この上映動師部部1/5 2 に接触部部2/3 に接触部部2/3 に接続部を1/4 には完形 ほぼ完形 ほぼ完形 ほぼ完形 ほぼ完形 ほぼ完形 ほぼ完形 ほぼ完形 ほぼ	外内物 外内物 外内物 外内物 外内物 外内物 外内物 所面 に表 大 水 内内物 外内物 外内物 所面 に
60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75	SK207 SK203 SK203 SK203 SK203 SX01 SX01	須惠 器 器 %生土器 %生土器 %年土器 %年土器 %年土器 %年土器 %年土器 %年土器 %年土器 %年	坏濫 型 型 型 型 型 型 型 型 型 型 型 型 型 型 型 型 型 型 型	12.3 14.9 (15.5) (15.5) (14.2) 12.3 11.5 (15.7) (15.4) (14.9) 20.2 18.5 17.9 18.3 (15.7)	19.3 (19.6) (20.9) 12.2 14.1 20.7 (22) 22.2	3.85 4.1 4.5 3.9 4.2 4.7 4 4.7	4.5 25.1 (21.1) 12.8 16.8 24.1 24.5 22.15 19.3 15.9 8.3	天井部は回転ヘラケズリ、他は回転ナデ。 □終部ココナデ。体部外面はタタキの後ヘラナデ。内面は刺離のため調整不明。 □総部ココナデ。体部外面は上半がタタキ、下半がタタキの後板ナデ。頭部付近にハケ目が残る。内面は板ナデ。 体部外面はタタキの後板ナデ。内面はナデ。外面に黒斑。 □総部はココナデ。体部外面はタタキ、内面は板ナデ。 □総部はココナデ。体部外面はタタキ、内面は板ナデ。 □総部はココナデ。体部外面はタタキ、内面は板ナデ。 □総部はココナデ。体部外面はタタキ、内面は板ナデ。 □総部ココナデ。体部外面はタタキ、内面は板ナデ。 □総部はココナデ。体部外面はタタキ、内面は板ナデ。 □総部はココナデ。体部外面はタタキで、底部附近はケズリ。内面はナデ。体部外面はタタキで、底部附近はケズリ。内面はナデ。体部外面はカタキで、内面はナデ。内面はガデ・ナデ。体部外面はタタキで体部中央にナデ。内面はガデ・ナデ。体部外面はタタキでを部に、上が、上が、上が、上が、上が、上が、上が、上が、上が、上が、上が、上が、上が、	内面N3/0 2.5Y7/1、 4/1 N7/0~5/0 10YR8/3]~5/2 10YR8/2 5/2 10YR8/2 5/2 10YR7/3~ 7.5YR6/4 10YR7/2 外面 7.5YR7/3 内面 10YR7/2 10YR7/2 10YR7/2 10YR7/3 7.5YR6/6,内面 2.5Y86/6,内面 2.5Y86/6,内面 5.5YR7/4 内面5YR6/6 7.5YR7/3 内面 7.5YR7/4 内面5YR6/6 7.5YR7/4 内面5YR6/6 7.5YR7/4 10YR7/3	長英 2-5 本 2	□緑部1/4、 体部と 2/3 4/5 1/2 4/5 1/2 体部2/3 4/5 1/2 体部2/3 □緑齢部1/4 ほぼ完形 2/3 □~ <u>○底</u> 縁部部7/4 に接那部第1/4 三~ <u>○底</u> 縁即部部1/2 で ○ 下 の 下 に に に に に に に に に に に に に に に に に に に	外内物

₩ 😐	- 平 旦	4# Pil	qu see	I == 4x / \	I strév /	let Ø/ \	I garate / N	UU TT GERWIN AA	I 4 -m			()は復元他
番号 79	祖号 包含層	土師器	器種	16.4	腹住(cm)	底径(cm)	器尚(cm)	器面調整・等 口縁部付近は摩滅が著しく調整不明。体部外面はヘラミガキ、 内面は板ナデ。	色 10YR8/2 ~7/2	<u>胎</u> 土 チャート、長石、石英、 赤クサリ礫を含む。	残存率 口縁部~頸 部1/2	備考
80	包含層	弥生土器	壶					頸部外面はハケの後ナデ?頸部と体部の境界に断面三角形 の刻み目を施した貼付突帯を巡らせる。体部外面はナデ。内	10YR7/2	粒径1~5.5mm 長石、石英、赤ク サリ礫含む。粒径		
81	包含層	弥生土器	広口壺	14.2				面は板ナデ。 内外面とも摩滅のため調整不明。	5YR7/6~ 7/3	1~6mm。 チャート、長石を 含む。粒径5mm	口縁部3/4	
82	包含層	土師器	短頸壺	(9.1)	(10.6			口縁部ヨコナデ。他は摩滅が著しく調整不明。	7.5YR8/3	以下 チャート、石英含む。 粒径0.5~4mm	口緑部~体 部1/4	
83	包含層	土師器	短頸壺	(9.1)	(10.4)			口緑部ヨコナデ。他は摩滅が著しく調整不明。	外面2.5Y8/2、 内面2.5Y4/1	長石、石英、チャ ート0.5~1.5mm	1/10	
84	包含層	弥生土器	魙	(11.2)	(13.6)	4.5	15.35	内外面とも摩滅が著しく調整不明。		長石、石英、チャ	1.0	
85	包含層	弥生土器		(11.2)	(14.7)	4.6	15.55	ドファト回とも序機が著しく調金不明。 体部外面はタタキ、内面は板ナデ。	10YR8/2 10YR6/2	ート1~3mm チャート、長石、石 英含む。粒径0.5	1/3	
86	包含層	弥生土器			(14.1)	4		体部外面はタタキ、内面はハケ。	10YR7/2	~7mm 長石、チャート、石 英含む。粒径0.5	体部1/4~	-
-		25.45.4.20						口縁部ヨコナデ。体部外面はタタキの後一部にハケとナデ。内	~5/1	~ 1mm チャート、長石含む。	底部完存	
87	包含層	弥生土器	甕	(14.6)	(18.2)	3.2	20.95	面は摩滅しているが板ナデ?。	2.5Y8/2	粒径1~3mm	2/5	
88	包含層	弥生土器	甕	(15.5)	(19.9)			口縁部ヨコナデ。体部外面はタタキの後、一部にヘラケズリ。 内面は摩滅が著しく調整不明だが、底部付近に指頭圧痕が 残る。	外面7.5YR8/4 ~10YR6/2、 内面5YR7/4	長石、石英、赤ク サリ礫、チャート含 む。粒径0.5~ 9mm	口縁部少し、 体部1/3	
89	包含層	弥生土器	槊	(13.4)	(15.7)	2.1	17.8	口縁部ヨコナデ。体部外面はタタキの後腹部付近はナデ。内面は板ナデ。	外面 5YR7/4、 内面N3/1	石英、長石含む。 径1~5mm	1/3	二次焼成
90	包含層	弥生土器	甕	(15.4)	(14.7)	1.85	13.9	口縁部ヨコナデ。体部外面はタタキの後板ナデ、内面は摩滅しており板ナデ・指オサエの跡が少し残る。外面に黒斑。	10YR7/2	長石、チャートを 含む。粒径0.5~ 2mm	1/2	
91	包含層	弥生土器	塑	(13.75)				口縁部ヨコナデ。体部外面はタタキ、内面は顕部下にヘラケズ リ、他はナデ。	10YR8/3	長石、石英含む。 粒径0.5~2mm	口縁部1/3	
92	包含層	弥生土器	甕	(16.2)				口縁部ヨコナデ。体部外面は調整不明、内面は板ナデ?。	外 面 10YR8/2、 内面N4/0	長石、チャートを 含む。	口縁部1/5	
93	包含層	土師器	魏	(15.2)				口緑部ヨコナデ。体部内面はヘラケズリ。	10YR8/3~ 7.5YR7/4	石英、長石、赤ク サリ礫含む。粒径 1~2mm	口縁部1/6	
94	包含層	土師器	鉢	(18.2)		. 8		内外面とも摩滅が著しく調整不明。	外面 2.5YR6/6、 内面10YR7/2	石英、長石、雲母 含む。粒径1~ 6mm	2/5	
95	包含層	土 師 器	鉢	15		3.75	8	口縁部ヨコナデ。口縁内面はヘラミガキ。体部外面はハケ、内面は縦方向のナデ。脚台部外面はヘラ調整。	10YR7/2	長石、チャート含む。 粒径1~4.5mm	口縁部1/2、 底部4/5	二次燒成
96	包含層	土師器	高坏	16.4				口縁部ヨコナデ。坏部内外面ともハケ。	10YR7/2	チャート、長石、石 英雲母含む。粒径 0.5~3mm	坏部4/5	
97	包含層	弥生土器	器台					受部外面はヨコナデ、内面は板ナデ。脚台部外面はヘラミガキ、 内面はヘラケズリ・ユピオサエ。	2.5Y7/1	長石、石英、チャ ート0.5~2.5mm	基部のみ	淡路型器台 A?
98	包含層	土師質	土錘	4.1~4.9			10.7	ナデ。一部に絞り痕のようなものがみられる。	2.5Y8/2~ 10YR5/2	長石、チャート、雲 母含む。粒径0.5 ~4mm	完形	
99	包含層	須恵器	坏蓋	11.75			4.7	天井部は回転ヘラケズリ、他は回転ナデ。	N6/0	粒径2mm以下	口縁部1/6、 天井部完存	
100	包含層	須恵器	坏蓋	(11.85)			4.75	天井部は回転ヘラケズリ、他は回転ナデ。	外面N6/1、 内面2.5Y6/1	粒径1mm以下	口縁部1/2弱、 天井部/3	
101	包含層	須恵器	坏蓋	(12.4)			4.6		外面はN6/0~ 5/0、内面は 7.5YR5/2~ N5/0	粒径2.5mm以下	口緑1/4弱、 天井部完存	
102	包含層	須恵器	坏蓋	(12.8)				天井部の2/3に回転ヘラケズリ、他は回転ナデ。	外面はN4/0、 内面はN6/0	粒径4mm以下	口縁部少し、 天井部1/6	
103	包含層	須恵器	坏身	(10.4)	(12.6)	(6.9)	5.1	平底から内彎気味に立ちあがり、受部は水平に広がる。立ち 上がり部は直立気味に伸び、端部は内側に軽く傾斜する。	N7/0~6/0	粒径0.5mm以下	口縁部少し~ 体部1/5 〜底部付近1/3	
104	包含層	須恵器	坏身	(11.6)	(14)			内面から受部下までが回転ナデ、底部外面は回転ヘラケズリ。	N7/0	粒径3mm以下	口縁部1/9 ~体部1/4	
105	包含層	須恵器	坏身	12.45	15.6		4.75	内面から受部下までが回転ナデ、底部外面は回転ヘラケズリ。	N6/0~5/0	径10mm程度の 砂粒も含む	口縁部3/4	
106	包含層	須恵器	高坏蓋					天井部は回転ヘラケズリ、つまみをナデで付け、他は回転ナデ。		粒径2mm以下	つまみと天井 部のみ残存	
107	包含層	須恵器	有蓋高坏	(10.9)		(8.75)	8.5	坏部内面から外面にかけては回転ナデ、坏部外面底部付近は回転、ラケズリ、脚部は回転ナデで成形し、坏部との接合部分はナデ、脚部には円形スカシ(後1.1~1.2cmが3ヵ所)。	N6/0	粒径lmm以下	即の4残存 口縁部1/6、 坏底部から 脚部完存、 脚裾1/4	
108	包含層	須恵器	有蓋高坏	(10)	(12.5)	9.1	8.8	内面から受部下までが回転ナデ、底部外面は回転ヘラケズリ。 脚部は回転ナデで円形スカシを3ヵ所にうがつ。	N7/0,5/0		四橋1/4 口縁部1/4 〜坏底部・ 脚柱完存、 脚裾2/3	
109	包含層	須恵器	無蓋高坏	(16.8)				跡が1ヵ所ある。脚部はほとんど失われているが、長方形のスカシが4カ所うがたれていた。	N7/0~6/0	%4XC Emm N T	四橋2/3 口縁部1/12、 坏底部完存、 脚部基部の み	
110	包含層	須恵器	高坏脚部			(10.2)		脚部は回転ナデで成形。外面にカキ目と長方形スカシ(残存2 カ所・推定3ヵ所)をうがつ。	外面N5/0、 内面N6/0	粒径3mm以下	脚部1/3	
111	包含層	須恵器	蓋	(16.8)				デール・ルス・ファール・アール・アール・アール・アール・アール・アール・アール・アール・アール・ア		粒径1mm以下	口縁部1/10	
112	包含層	須恵器	鹿頭部					〒・泉、口はヘラ書きで、全体にナデで仕上げる。枝角の間に 自然釉が掛かる。	5Y6/1	粒径0.5mm以下	頭部のみ	
(ロカルコはん たんしんり		,		1

第4章 まとめ

今回の調査では、これまでも述べてきたように大別して上下二つの遺構面を検出した。上層遺構面では中世、下層遺構面では弥生時代後期、弥生時代後期末(庄内式併行)、古墳時代前期(布留式併行)、古墳時代後期の4段階の遺構を同一面で検出した。最後に今回の調査地点について時代順に簡単に述べ、まとめにかえる。

弥生時代後期

弥生時代後期の遺構と考えたのは竪穴住居群である。かなり削平を受けて遺存状況が悪く、これらの住居群に伴う遺物が検出されていないので、厳密に言うなら時期は不明である。ただし、SH01を切っているSK203の出土土器やSH02~04を切っているSD206の出土土器が弥生時代後期末のものであることや、平面形が隅丸方形を呈する点から見て、SH05を除く住居は弥生時代後期のものと考えて大過ないと思われる。

弥生時代後期末 (庄内式併行)

弥生時代後期末の遺構としては溝と土器溜まりが検出されている。これらの溝も当初営まれた面よりかなり削平を受けていると思われ、具体的な機能については不明である。ただし、看護大学建設時の調査(以下、前回の調査と呼ぶ)ではこの時期の溝や住居状の遺構が見つかっており、今回の調査区が集落の縁辺にあたる可能性がある。

この時期の遺物として、「淡路型器台」と称される特徴的な器台が5点出土している。その内訳は、いわゆる精製のもの3点と粗製のもの2点である。池田毅氏の研究によると明石川流域はこれまでも淡路型器台が濃密に分布する地域である。ただし、精製のものがほとんどで、粗製のものについては玉津田中遺跡で1点が確認されていただけであった。今回、精製のものと粗製のものが同一遺構から出土したことが確認されたことで「粗製・精製」のセットで受容された可能性も見えてきたのではないかと思う。

古墳時代前期(布留式併行)

古墳時代前期の遺構としてはやや規模の大きな溝が1条見つかっている。使用痕のある関係に近い土器が投棄されたような状況で見つかっていることから、近くに居住域の存在が予想されるものの、前回の調査でも同時期の遺構は少なく、詳細は不明である。ただし、最近の神戸市教育委員会が兵庫県立大学北側隣接地で行った調査では、弥生時代末から古墳時代前期の住居群が検出されており、集落の中心が南から北へ移動したことが考えられる。

古墳時代後期

古墳時代後期の遺構には溝と土壙があり、前段階に引き続いて集落の縁辺部であった可能性が高い。 出土している須恵器は陶邑編年でいえばTK23~TK47型式に併行するものがほとんどをしめ、同じく明 石川流域の玉津田中遺跡でも、この時期に弥生時代とは別の場所に居住域が成立するとされており、明 石川中・下流域における古墳時代後期の集落動態を示唆する資料となると考えられる。

包含層出土の須恵器牡鹿小像であるが、包含層からの単独出土で、遺物の項でも書いたようにどのよ

うな装飾付須恵器に付けられていたものかは定かではない。井守徳男氏の研究によれば、これまで旧明石郡内では9ヶ所で装飾付須恵器の出土が認められ、人物・動物等の小像が付くものの割合が、播磨の他の地域(加古川流域、市川・揖保川・千種川流域)に比して高いという。ただし、集落遺跡からの出土例は少なく、明石川流域では本遺跡例が初めてではないかと思われる。また、生産地については赤根川窯跡で本遺跡よりも1段階新しい段階の装飾付須恵器が出土しているものの、窯跡自体の類例も少なく、現時点では判然としない。なお、本遺跡例については、通常の小像よりも大きいとの指摘があり、間壁葭子氏より「牡鹿形土製品」である可能性も考えるべきではないかというご教示を得た。小像の表現には変異が大きく、単純な比較が困難であるが、勝手野6号墳出土器台の牡鹿小像の同じ部位と比較しても本遺跡例は3割程度大きい。本遺跡例が装飾付須恵器の小像であるのか、それとも単独の土製品であるのかは、今後出土例の増加を待って、改めて考えてみたい。

中世

第1遺構面では、周辺の条里にそった溝群を検出した。これらの溝の機能については、深度が浅く、掘り直しもされていることから、いわゆる「スキ溝」と考えている。今回の調査では同時期の居住域は確認されていないが、前回の調査で、12から14世紀にかけて営まれた屋敷地が検出されている。特に14世紀代の屋敷地に営まれた建物の方位は溝の方位とほぼ同じであり、両者に関連性があることを伺わせる。

参考文献

山下・稲原・松村編『赤根川・金ヶ崎窯跡』明石市教育委員会(1990)

西口圭介編『吉田南遺跡(足田地区)・北王子遺跡』兵庫県教育委員会(1995)

井守・久保・松岡編『勝手野古墳群』兵庫県教育委員会 (2002)

池田 毅「揺籃期の象徴『淡路型器台』」『水野正好先生古稀記念 続文化財学論集』(2003)

井守徳男「兵庫県出土の装飾付須恵器集成(2) -播磨明石郡及び摂津・但馬」

『兵庫県埋蔵文化財研究紀要』第3号(2003)

多賀茂治「弥生時代後期~古墳時代前期の土器」『玉津田中遺跡―第6分冊―』兵庫県教育委員会(1996) 菱田淳子「古墳時代中期~後期の土器」『玉津田中遺跡―第6分冊―』兵庫県教育委員会(1996)

1. はじめに

吉田南遺跡の調査では、古墳時代後期の溝内から赤色物が付着した岩石が出土した。 ここでは、X線分析顕微鏡を用いて試料面の元素マッピングを行い、赤色物の成分の検討を行った。

2. 試料と方法

試料は、古墳時代後期溝包含層内から出土した岩石1試料である(図1)。

はじめに表面の赤色物元素の分布状態を調べるために、X線分析顕微鏡を用いて元素マッピング分析を行った。測定元素は、アルミニウムAI、ケイ素Si、イオウS、カリウムK、カルシウムCa、チタンTi、マンガンMn、鉄Fe、亜鉛Zn、ジルコニウムZr、水銀Hgである。元素マッピングの結果、水銀が検出されなかったため、鉄の高い位置を選定し点分析を行った。

測定は、(㈱堀場製作所製XGT-5000Type II を用いた。元素マッピングは、X線導管径 $100\,\mu\,\text{m}$ 、電E50KV、測定時間3200秒である。また、点測定は、測定時間500 sec、X線導管径 $100\,\mu\,\text{m}$ 、電E50KV、電流自動設定である。定量計算は、標準試料を用いないFP法(ファンダメンタルパラメータ法)で半定量分析を行った。

3. 結果および考察

元素マッピング分析の結果、チタンTiや鉄Feは偏在分布するものの、水銀は得られなかった。このことから、少なく赤色物は水銀朱でないことが分かった(図1)。鉄のマッピング図を見るとその分布において偏在が認められるが、チタンにおいても同様の偏在分布が認められた。

最もFe輝度の高い位置における点分析では、鉄含有量が9.55%、チタン含有量が1.29%であった(表 1)。

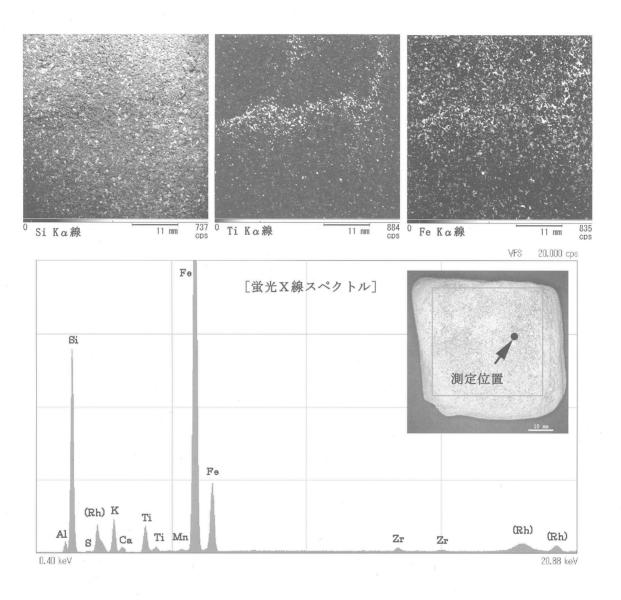
赤色顔料としては、ベンガラ(赤鉄鉱(hematite; Fe2O3))、水銀朱(辰砂;HgS)が知られている(馬淵ほか、2003)。この岩石の元素マッピングにおいて水銀が検出されないことから、この赤色物は水銀朱ではない。

一方、鉄は最大9.55%程度検出されるものの、チタンが1.29%と多く、鉄が偏在分布すると同様にチタンも偏在分布を示すことから、赤色物はチタンを含む鉱物と推定される。これは、ベンガラ鉱物は赤鉄鉱であるがチタンを含まないことから、岩石(砂岩)中に含まれていたチタン鉄鉱(Fe+2TiO3)などが酸化して赤色を呈していると考えられる。よって、この岩石表面に見られる赤色物は赤色顔料としてのベンガラではなく、本来岩石中に含まれているチタン鉄鉱が酸化して赤色を呈している可能性が高く、かつ顔料の可能性は低いと考える。

試	料	Al ₂ O ₃	SiO ₂	SO₃	K ₂ O	CaO	TiO ₂	MnO	Fe ₂ O ₃	ZnO	ZrO ₂	合 計
磨	石	7.41	78.24	0.16	2.97	0.29	1.29	0.04	9.55	0.01	0.04	100

引用文献

馬淵久夫・杉下龍一郎・三輪嘉六・沢田正昭・三浦定俊(2003)文化財科学の事典. 朝倉書店、522p.



図版1 試料の元素マッピング図と蛍光 X線スペクトル図

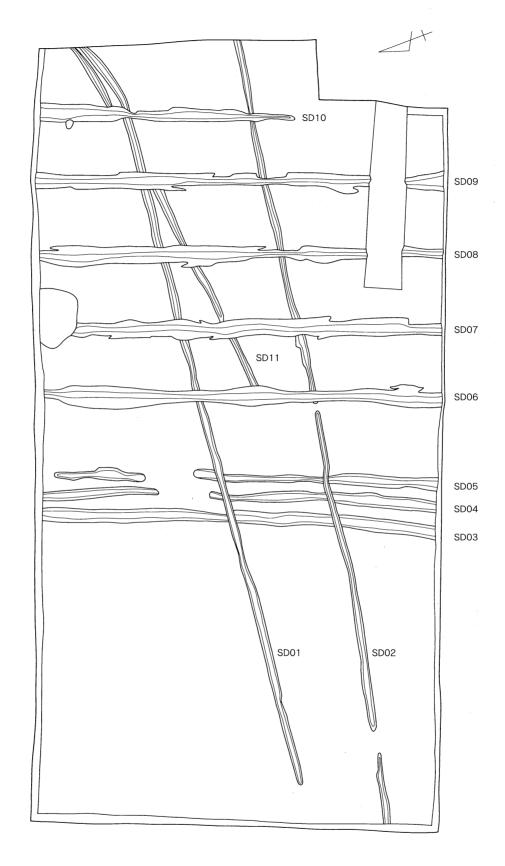
上段;ケイ素 (Si)、チタン (Ti)、鉄 (Fe) の各マッピング図 (スペクトル図の□範囲)

下段;点分析による蛍光X線スペクトル図

報告書抄録

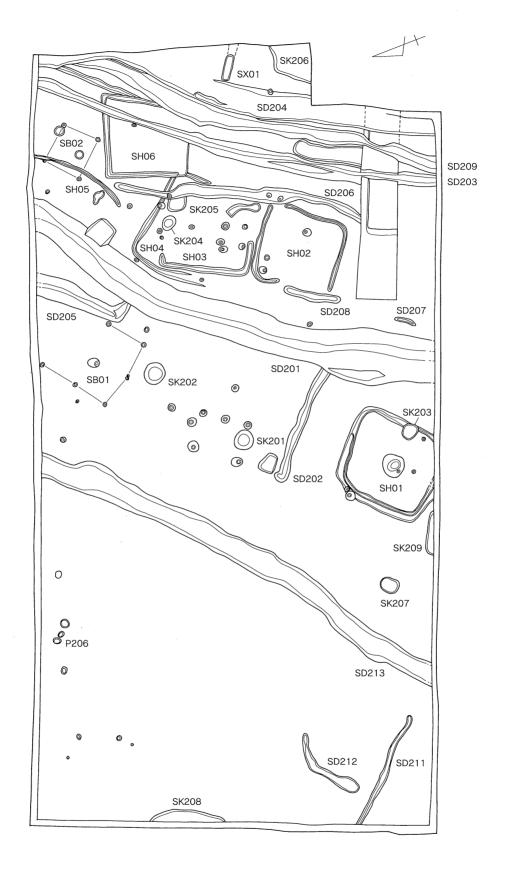
よみがな	よしだみなみいせき											
書名	吉田南遺跡											
副書名	地域ケア開	地域ケア開発研究所建設事業に伴う										
巻次												
シリーズ名		/財調查報告				-						
シリーズ番号	第299冊											
編著者名	鐵 英記						1.					
編集機関	兵庫県教育	 香員会埋蔵	文化財調査	事務所								
所在地	〒652-0032	2 神戸市兵	庫区荒田町	2丁目1番5	号 TE	L 078-531-7	7011					
発行年月日	西暦2006年	三(平成18年)	3月20日									
所収遺跡名	所在地	市町村	ード 調査番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因				
吉田南遺跡	神戸市西区 玉津町吉田 字足田486 他	281115	2003123	34度 39分 19秒	34度 58分 57秒	確認調査 20030715~ 0716 本発掘調査 20030818~ 1016	30 m² 840 m²	地域ケア開発 研究所建設 設事業に伴う事前調査				
所収遺跡名	種 別	主な時代		遺構		遺物	特記	事項				
吉田南遺跡	集落		建物2棟・	棟・掘立柱 構13条・土	土器•石器		淡路型器台 (牡鹿頭部)	須恵器小像				
	生産域	平安時代末 ~鎌倉時代	溝11条		土師器・須原	恵器						

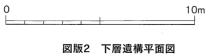
図 版

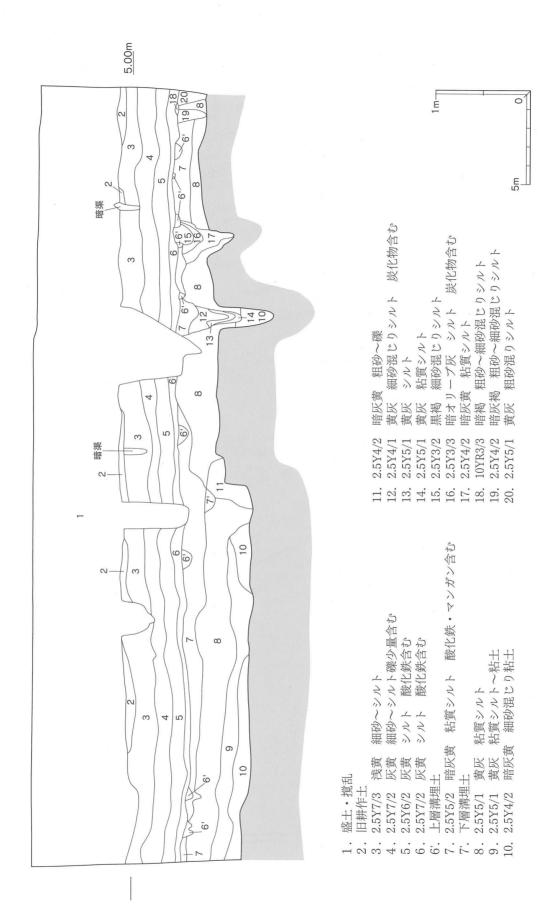




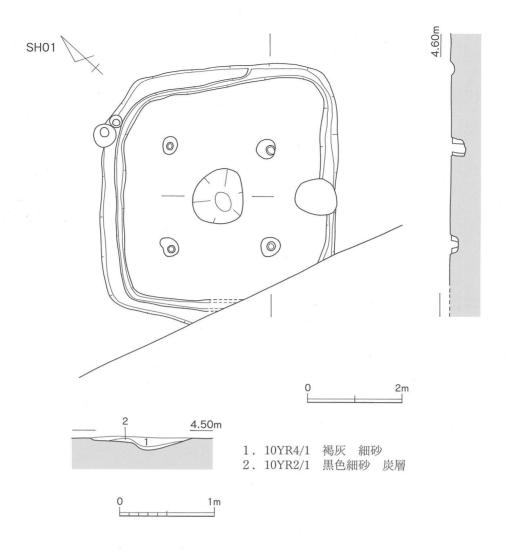
図版1 上層遺構平面図



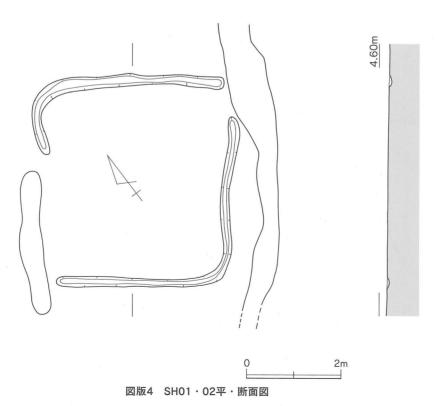


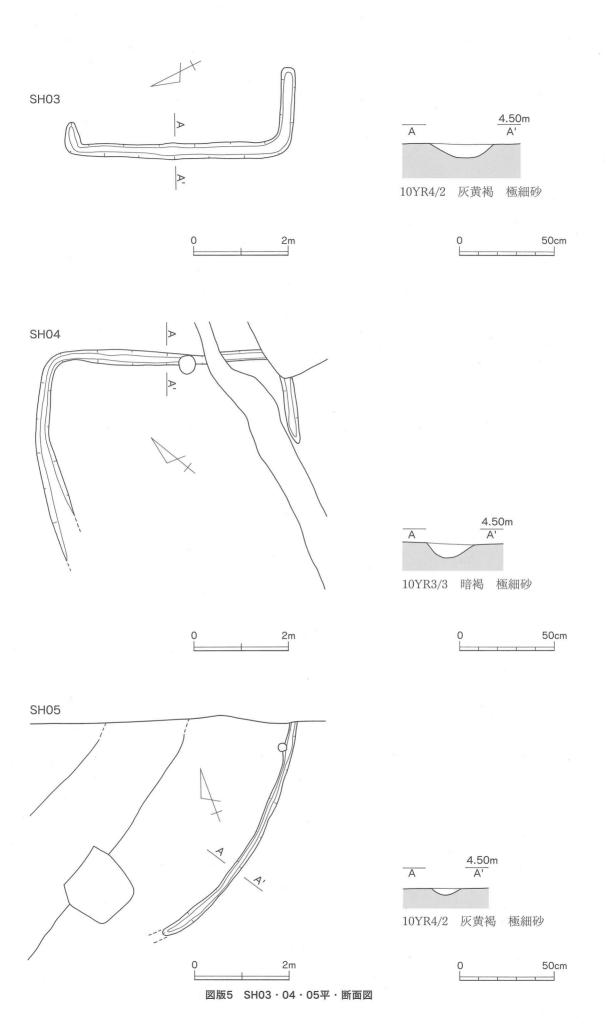


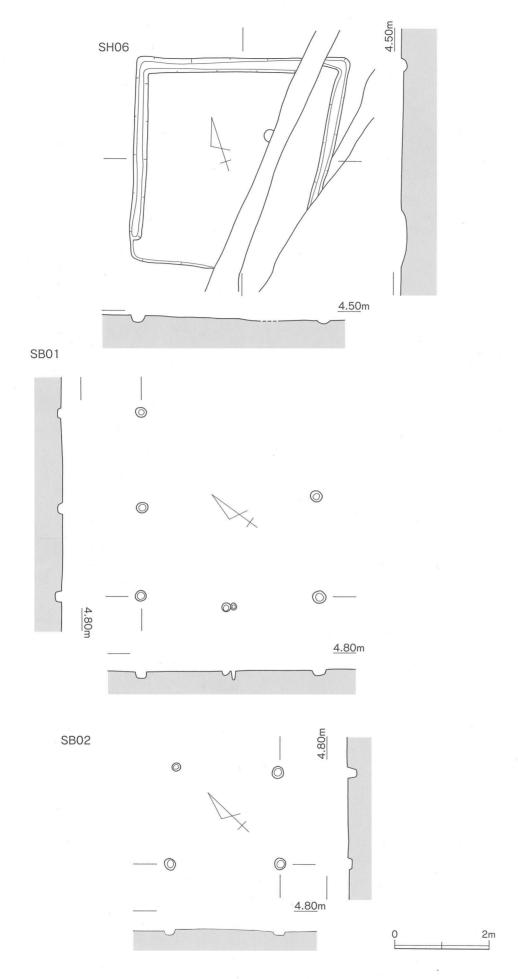
図版3 調査区北壁土層断面図



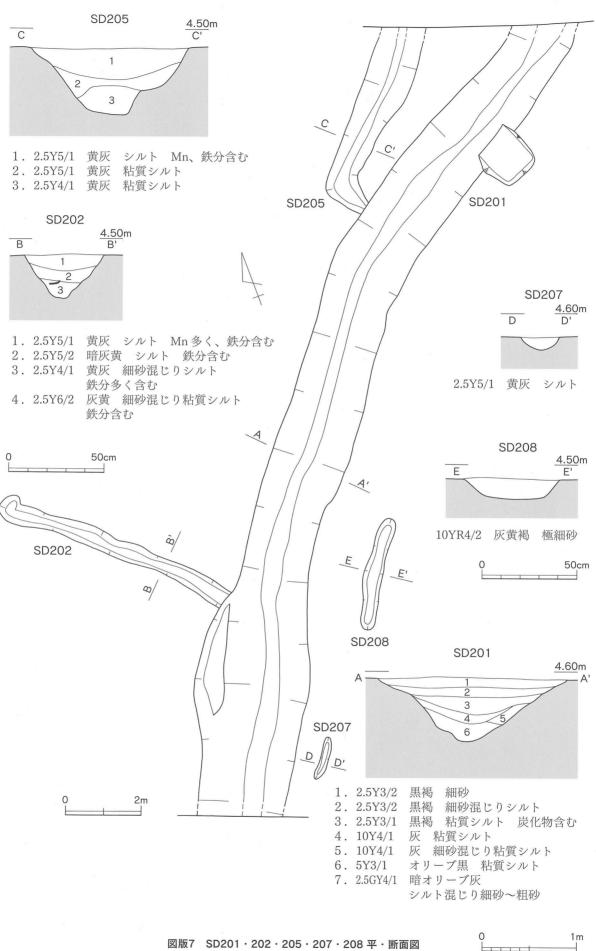
SH02

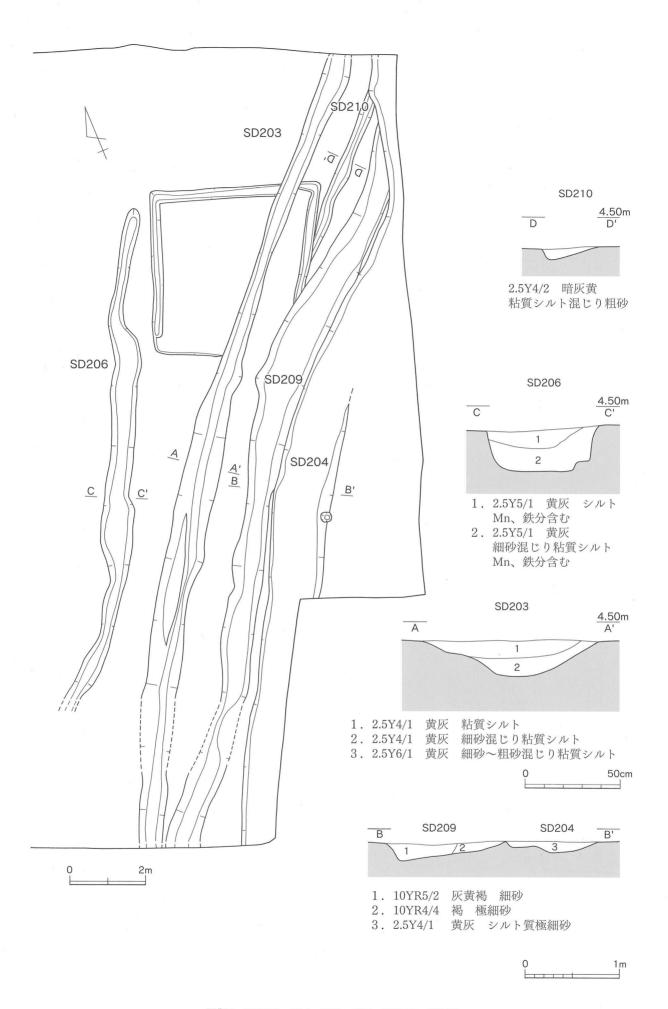




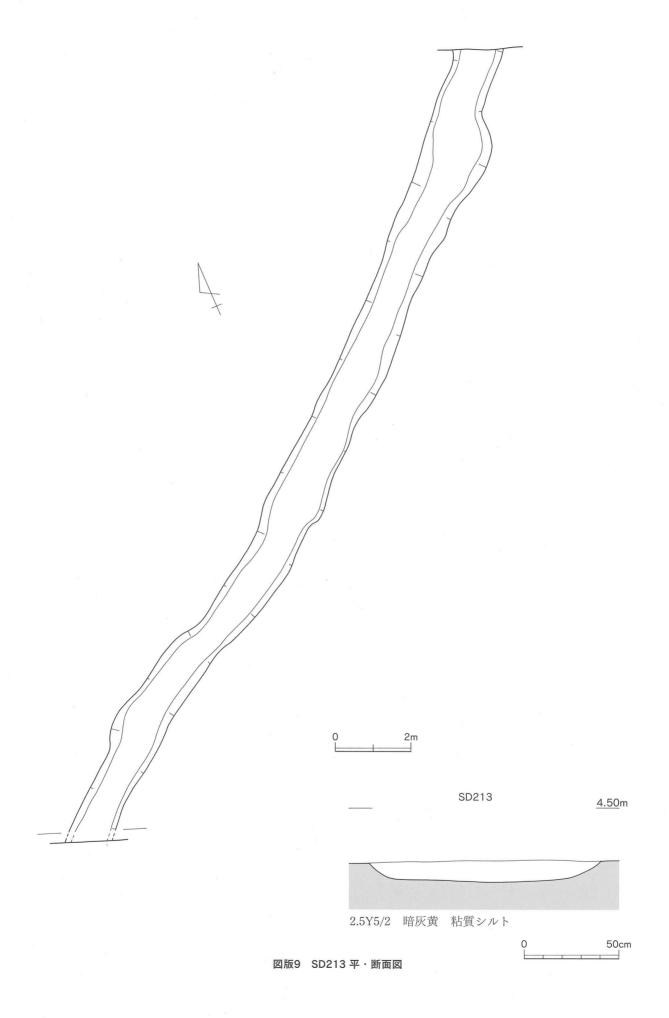


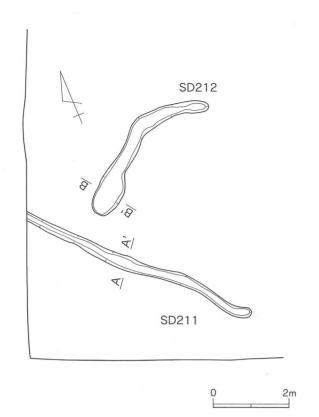
図版6 SH06·SB01·SB02平·断面図

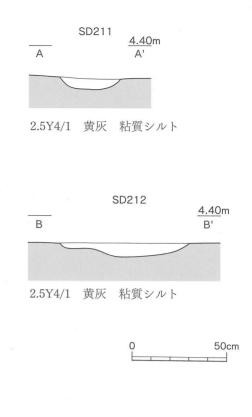


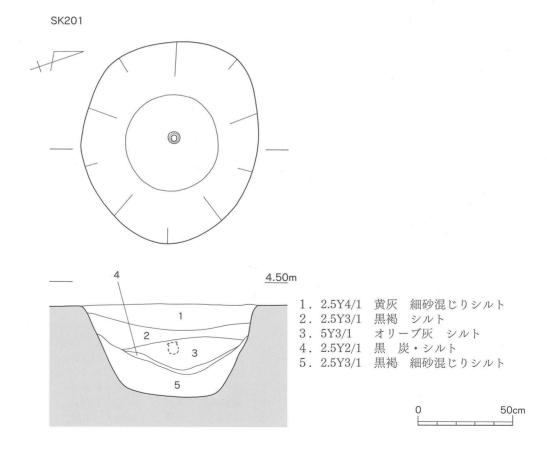


図版8 SD203 · 204 · 206 · 209 · 210 平 · 断面図

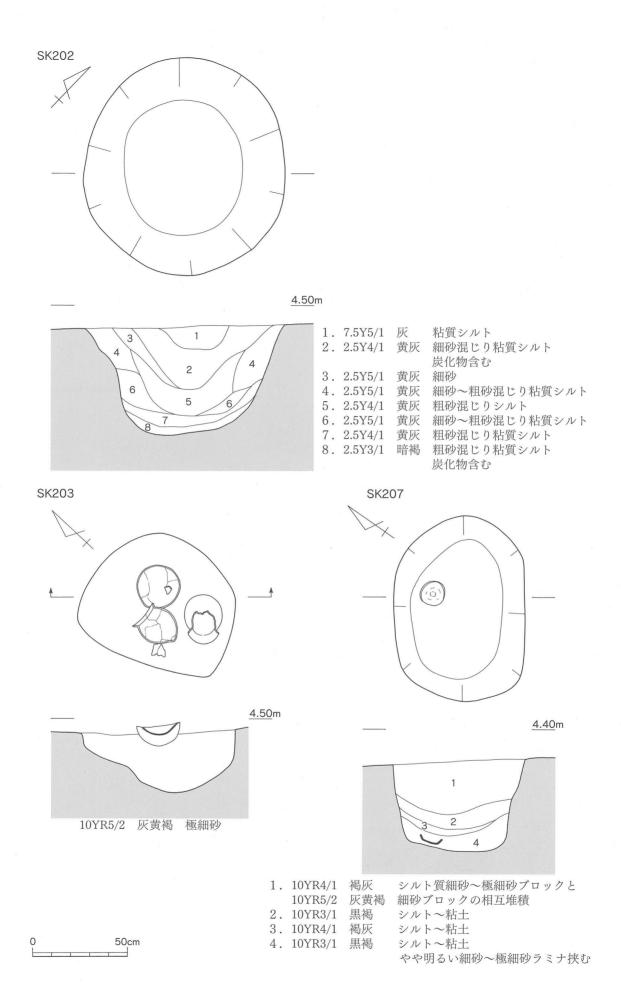




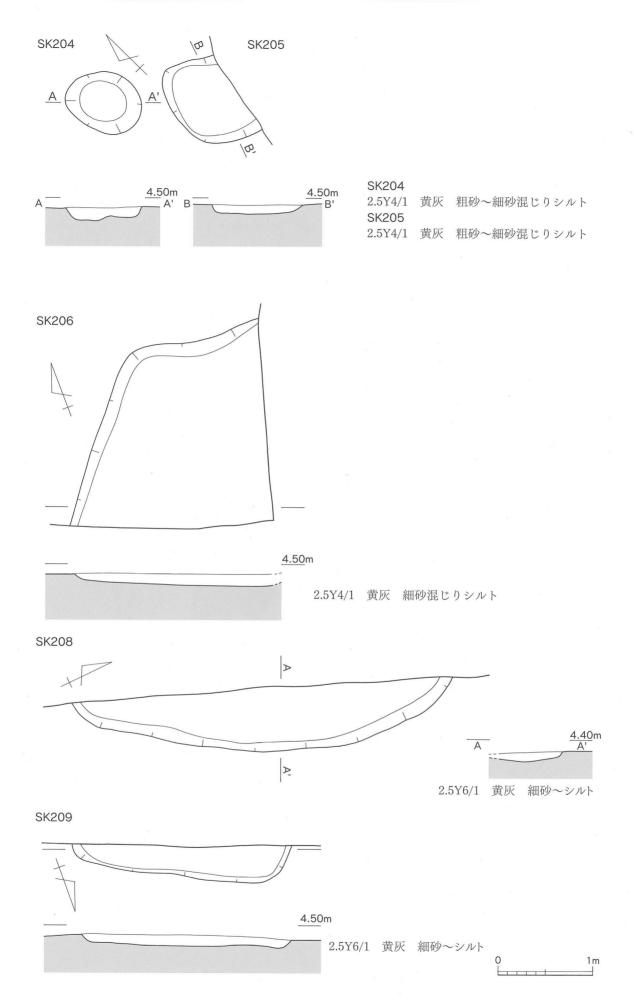




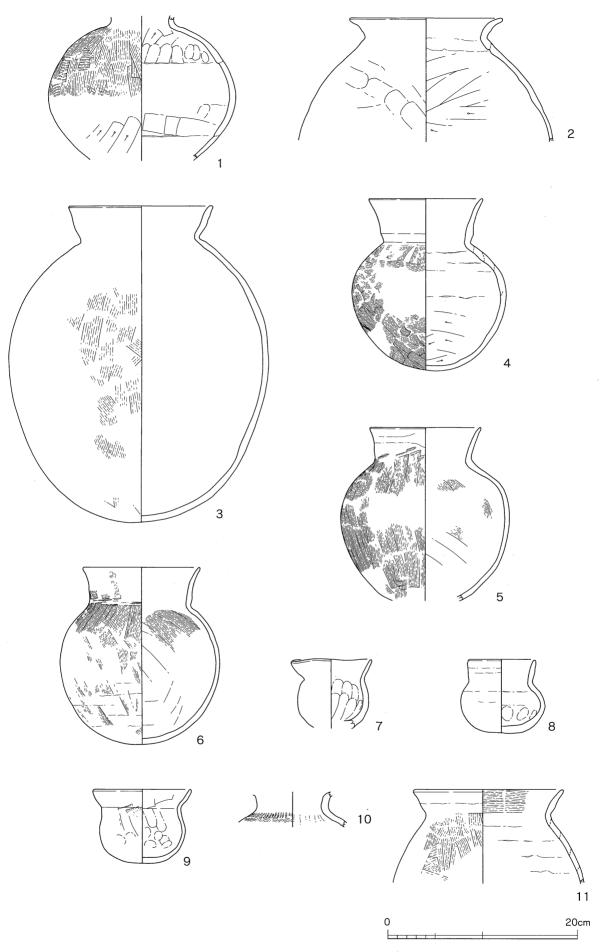
図版10 SD211 · 212 · SK201 平 · 断面図



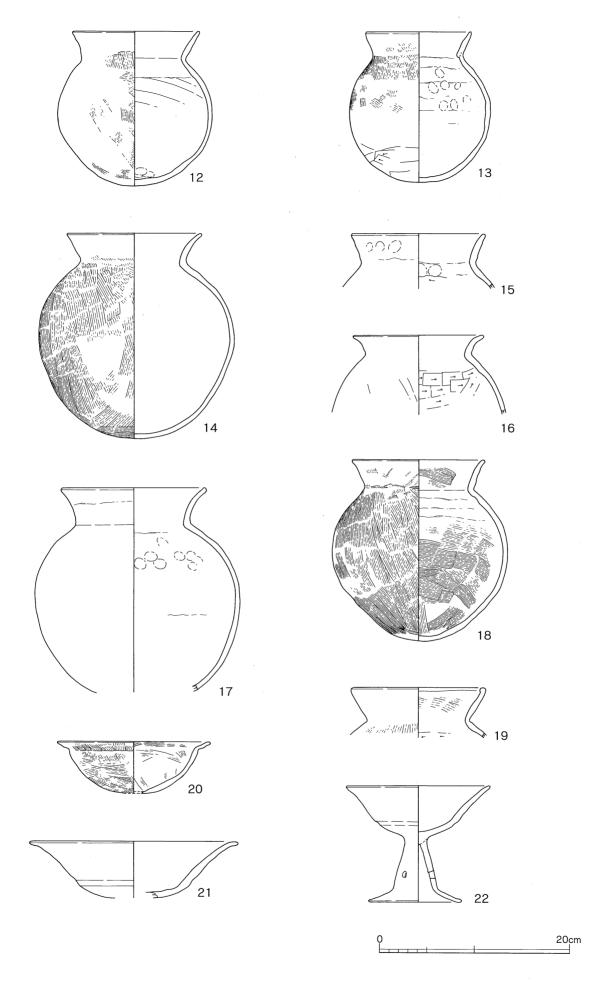
図版11 SK202 · 203 · 207 平 · 断面図



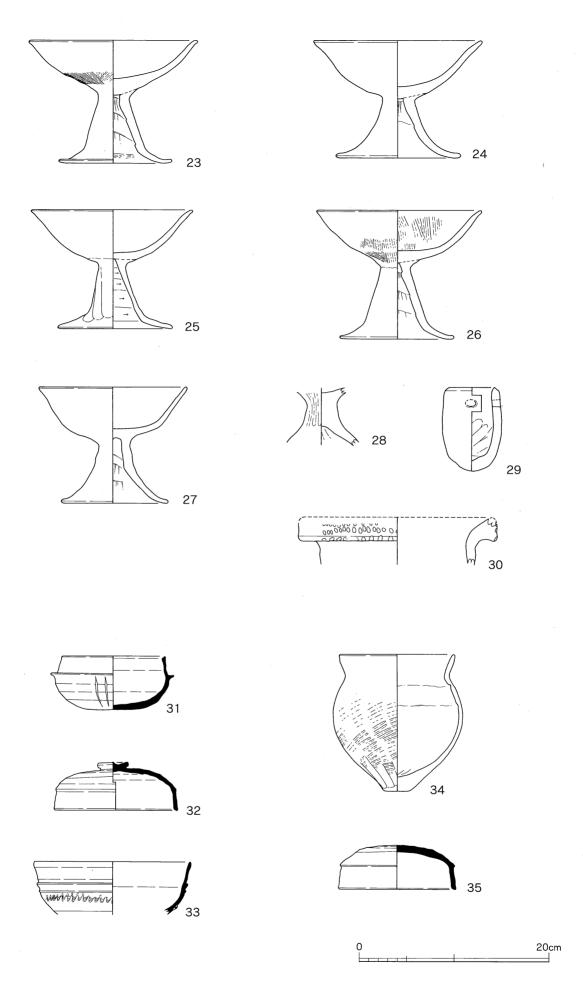
図版12 SK204 · 205 · 206 · 208 · 209 平 · 断面図



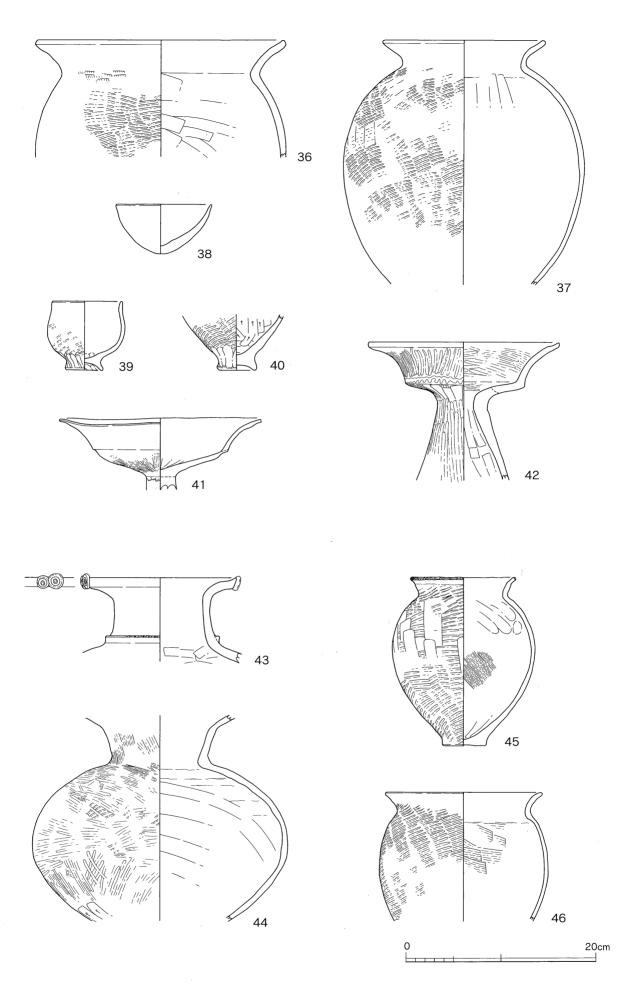
図版13 遺構出土遺物1



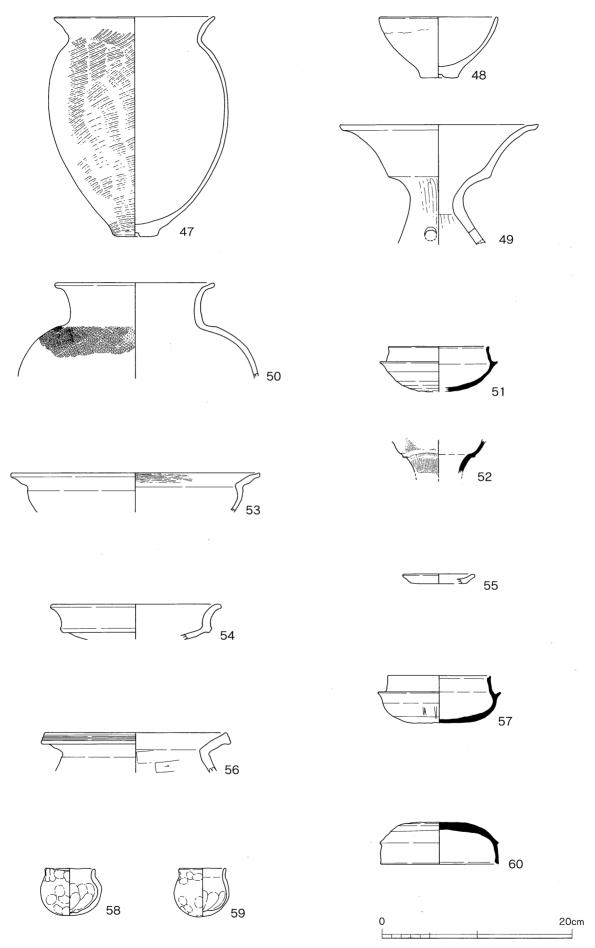
図版14 遺構出土遺物2



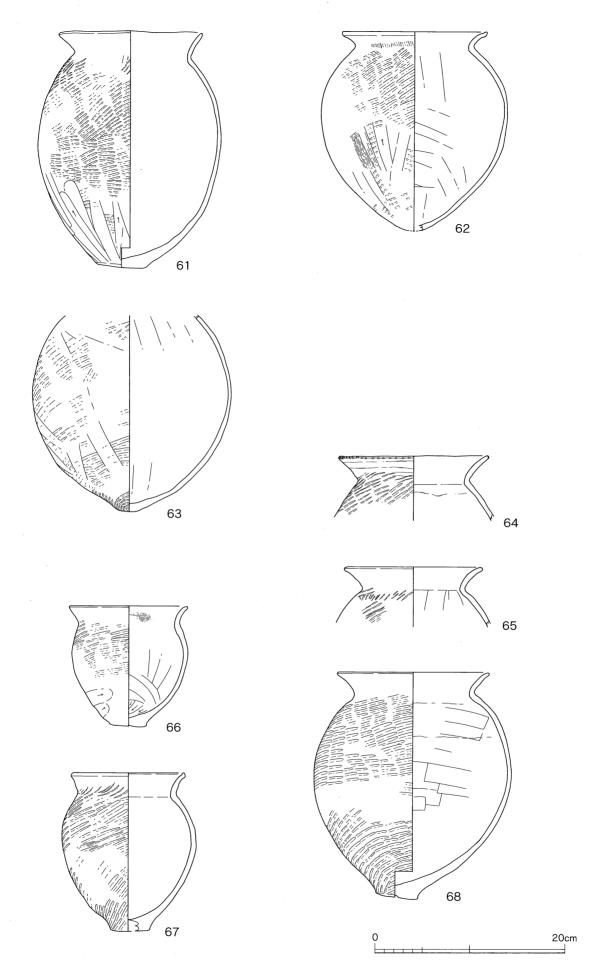
図版15 遺構出土遺物3



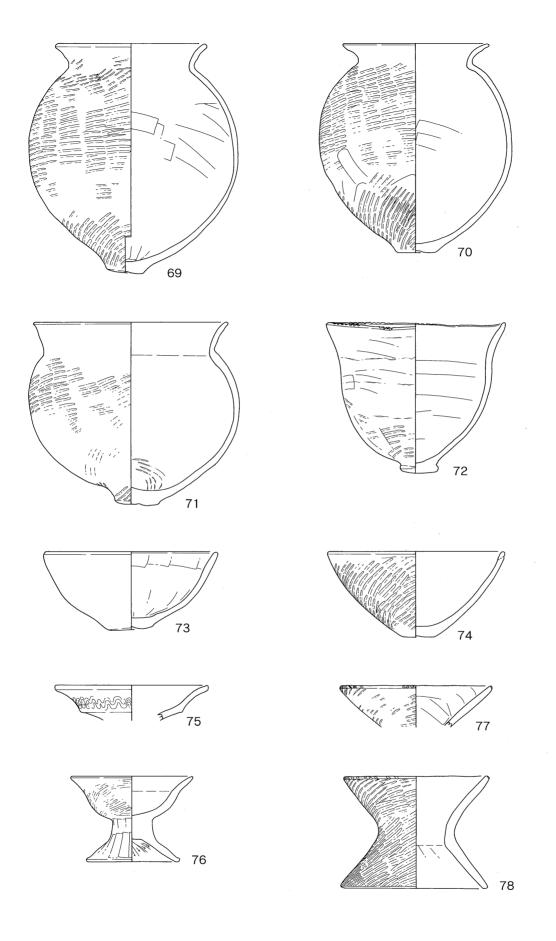
図版16 遺構出土遺物4



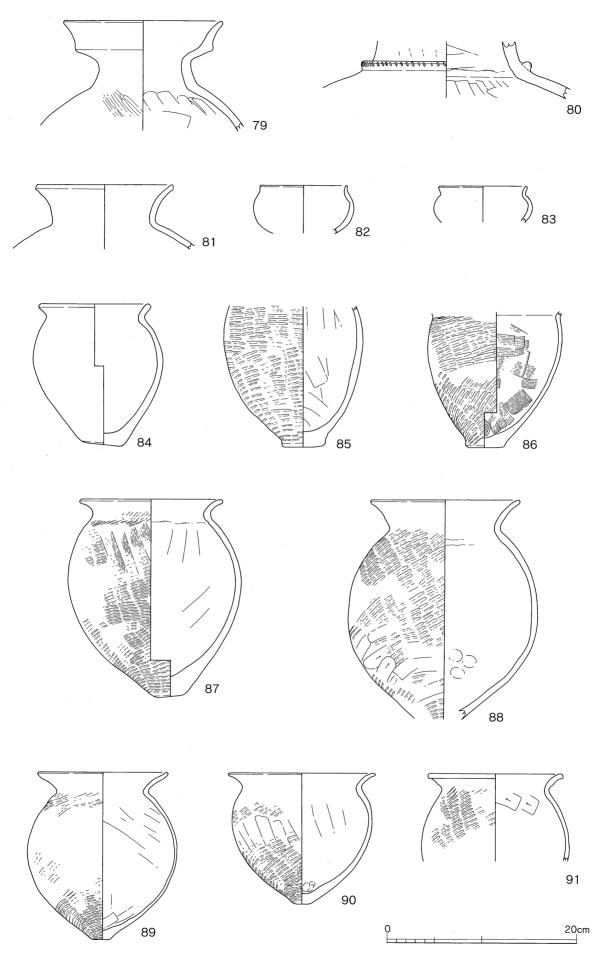
図版17 遺構出土遺物5



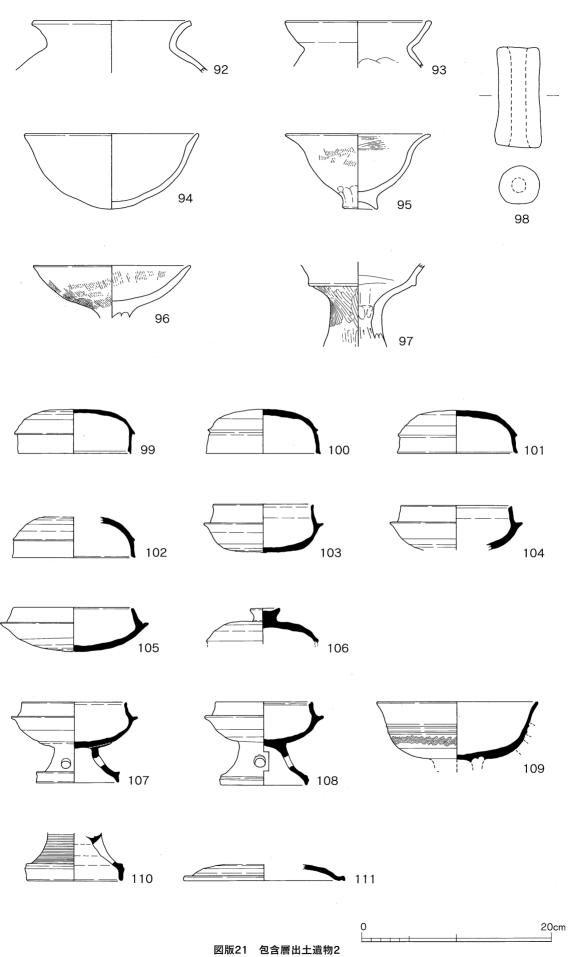
図版18 遺構出土遺物6



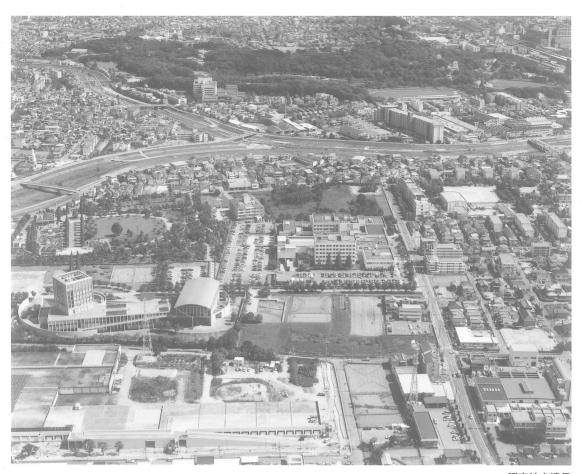




図版20 包含層出土遺物1



写真図版



調査地点遠景 上空西から



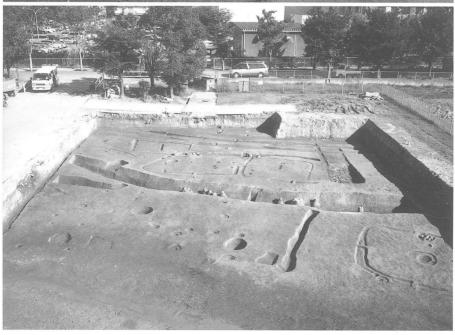
調査区全景 上空北東から



上層遺構全景 東から



上層遺構 北から



下層遺構全景 西から

写真図版3



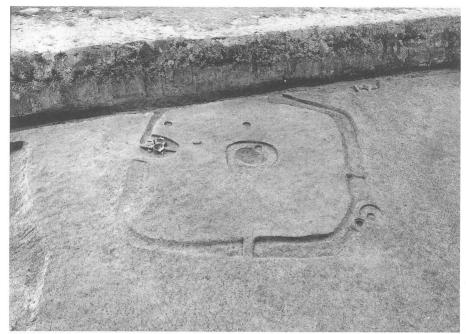
下層遺構部分 北から



堅穴住居・溝 北から



堅穴住居・溝 西から



SH01 北から



SB01 南西から



SB02 南西から

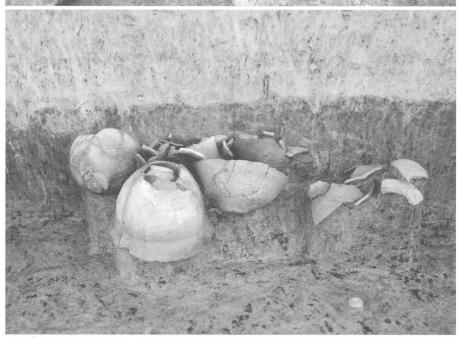
写真図版5



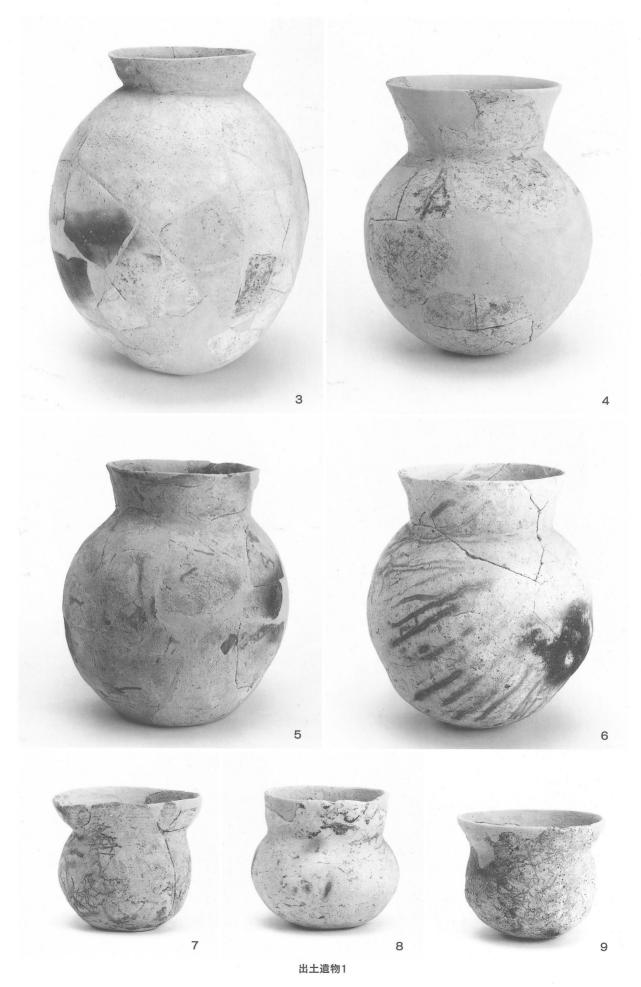
SK203 西から

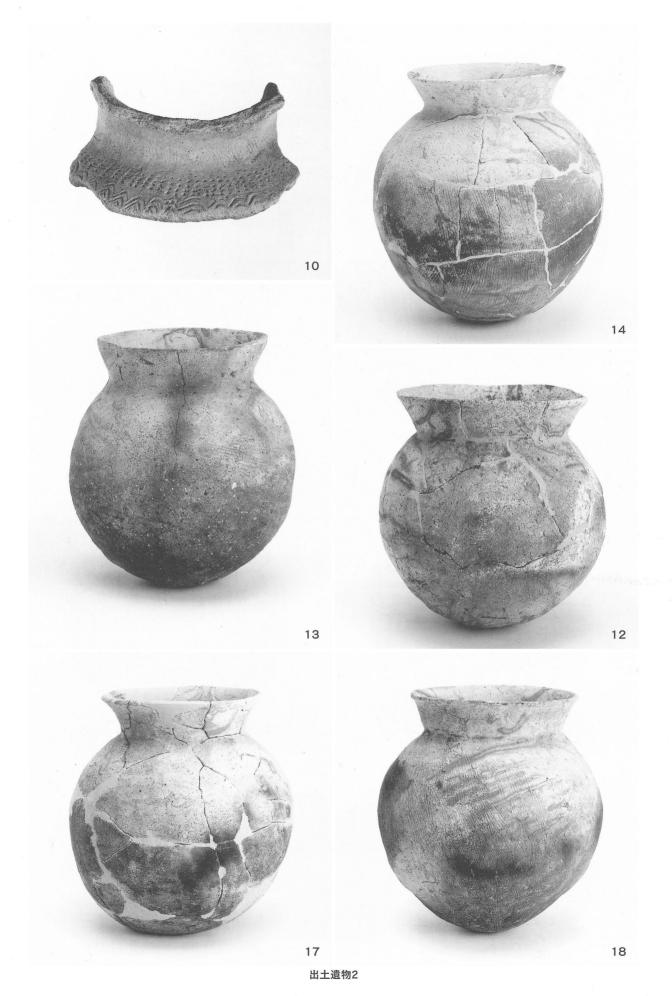


SK201 土器出土状況 東から



SX01 土器出土状況 西から





56



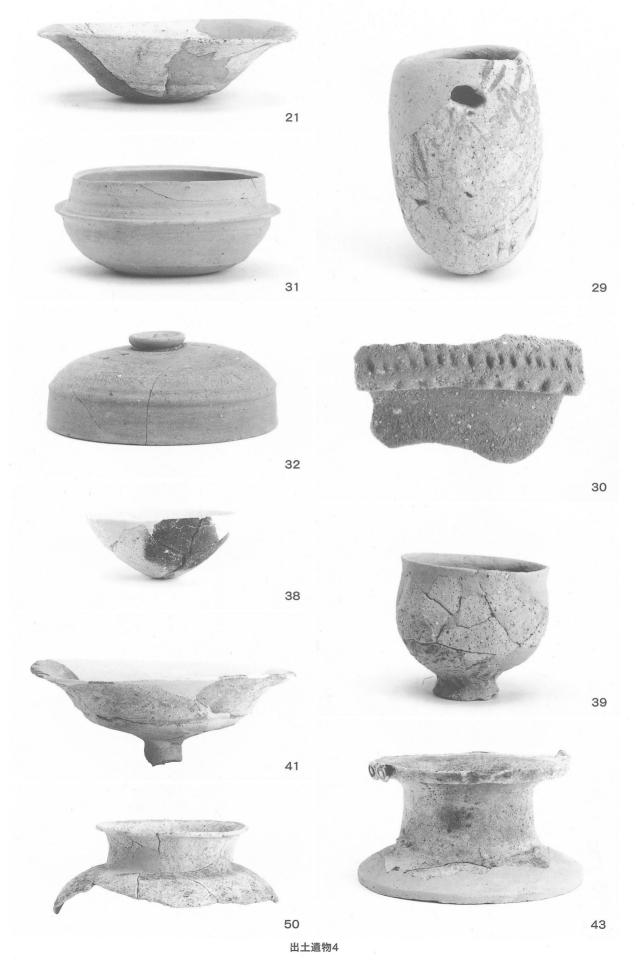






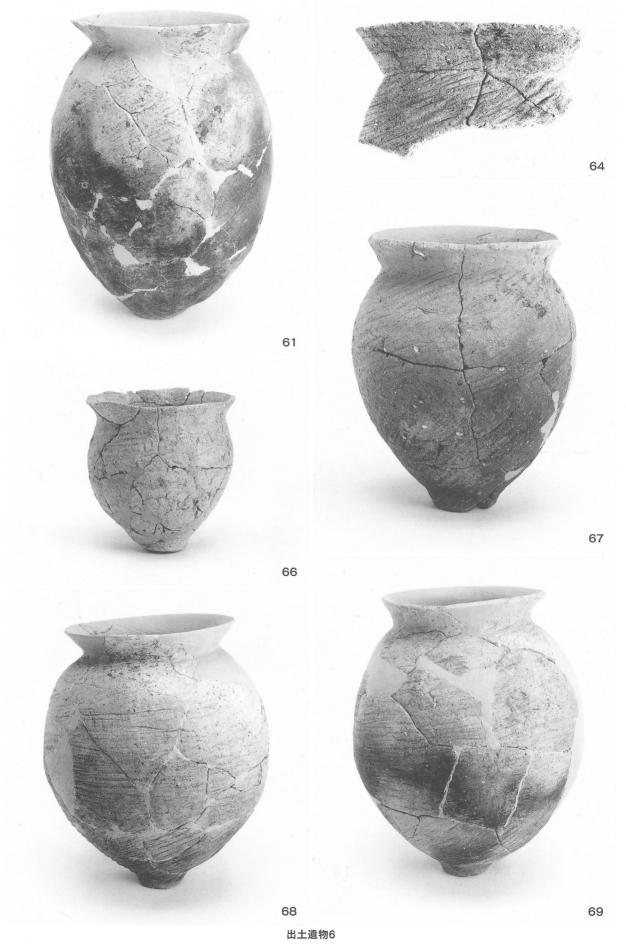


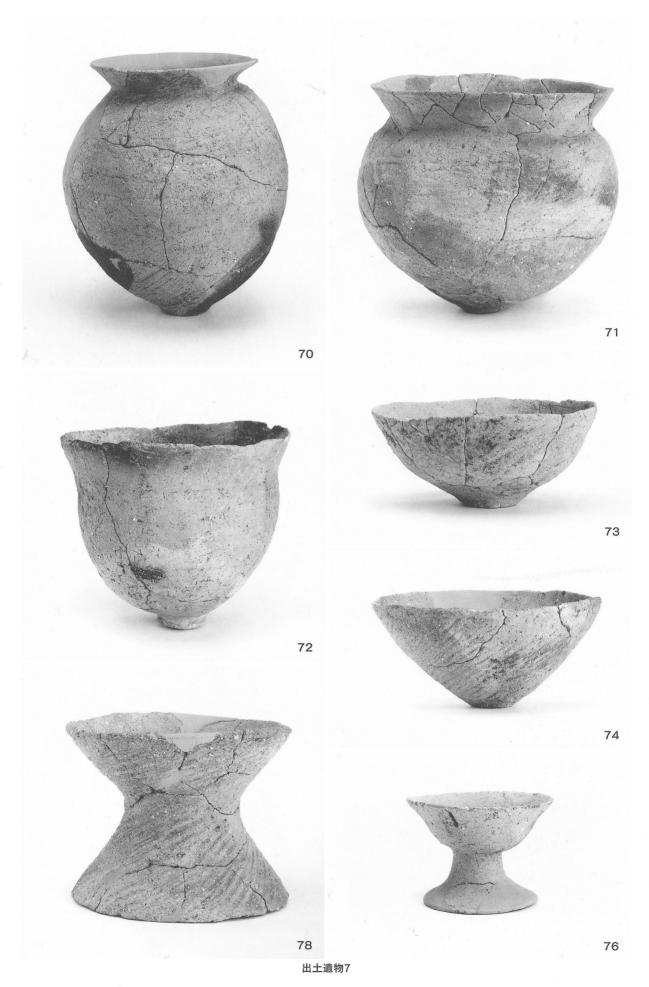
27 出土遺物3





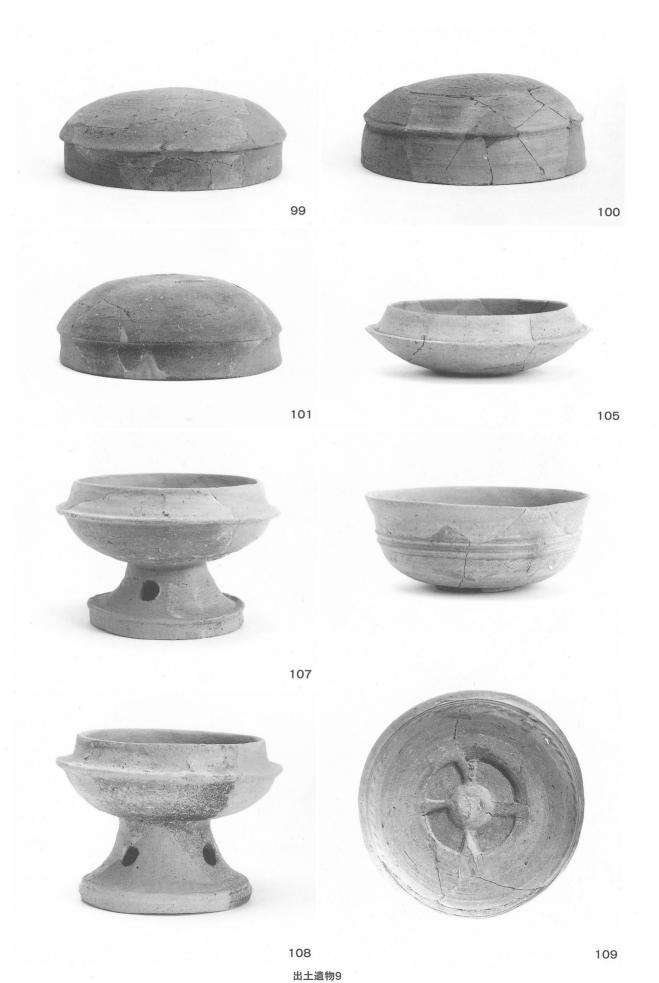
59





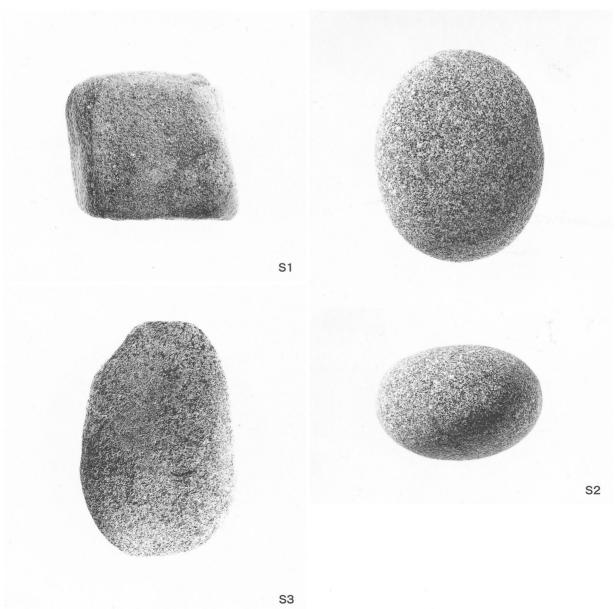


出土物遺物8



63





出土遺物10

吉田南遺跡

- -地域ケア開発研究所建設事業に伴う発掘調査報告書-2006年(平成18年)3月20日
 - 編 集 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所 〒672-0032 神戸市兵庫区荒田町2丁目1番5号
 - 発 行 兵庫県教育委員会 〒650-8567 神戸市中央区下山手通5丁目10番1号
 - 印 刷 株式会社 旭成社 〒651-0094 神戸市中央区琴ノ緒町1丁目5-9